

**孤独・孤立対策に関する地域連携推進モデル調査研究業務  
（東北、関東、北陸・東海、近畿地域）**

**調査報告書**

**令和6年3月**

**株式会社 野村総合研究所**

# 孤独・孤立対策に関する地域連携推進モデル調査研究業務

## （東北、関東、北陸・東海、近畿地域）

### 調査報告書

#### — 目 次 —

|                                          |     |
|------------------------------------------|-----|
| 第1章 調査研究事業の概要 .....                      | 1   |
| 1-1. 調査研究事業の概要 .....                     | 1   |
| 1-2. 調査研究事業の目的 .....                     | 1   |
| 1-3. 調査研究事業の実施体制 .....                   | 2   |
| 1-4. 調査研究事業の詳細（各自治体の活動で得られたこと） .....     | 3   |
| 1) 官民連携 PF の組成 .....                     | 3   |
| 2) 試行的事業の実施 .....                        | 3   |
| 3) 各自治体が官民連携 PF に取り組む上での留意点・示唆集の作成 ..... | 4   |
| 1-5. 本報告書の構成 .....                       | 8   |
| 1-6. 仕様書と本報告書の関係 .....                   | 9   |
| 第2章 事例集 .....                            | 10  |
| 2-1. 仙台市 .....                           | 11  |
| 2-2. 富山県 .....                           | 28  |
| 2-3. 座間市 .....                           | 46  |
| 2-4. 飯山市 .....                           | 64  |
| 2-5. 生駒市 .....                           | 80  |
| 第3章 留意点等示唆集 .....                        | 102 |
| 3-1. 連携PFの行程および実務上の留意点 .....             | 102 |
| 3-2. 広域自治体・大規模都市ならではの取組・ポイント .....       | 122 |



## 第1章 調査研究事業の概要

### 1-1. 調査研究事業の概要

わが国では、長引く新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、自殺者数、DV 相談件数への影響にも見られるように、孤独・孤立の問題の顕在化、深刻化が進んでいる。さらに今後、物価高騰の影響も加わって、生活困窮等に関する不安や悩みを抱える者、悩みが深刻化する者が増加する恐れがあり、孤独・孤立に悩む者に対するきめ細やかな対応の強化が喫緊の課題となっている。

一方で、令和4年2月には、国レベルの官民連携プラットフォームが始動した。今後、支援を必要な方々に、よりスムーズに各種の支援策が届くようにするためには、住民に身近な地方においても行政やNPO等の連携を進めていくことが求められている。

### 1-2. 調査研究事業の目的

以上を踏まえ、本業務は、直近の孤独・孤立対策に係る調査結果や、令和4年4月にとりまとめられた「原油価格・物価高騰等総合緊急対策」を踏まえ、孤独・孤立に悩む方々に各種の支援策がより着実に届くよう、住民に身近な存在である地方公共団体やNPO等関係団体の連携強化を緊急に行い、地方公共団体における孤独・孤立対策の充実を目的として実施するものである。

具体的には、孤独・孤立の問題に対応するため、地方公共団体等において、官・民・NPO等の関係者による地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム（以下、「連携PF」という。）の形成を前提として、孤独・孤立対策の充実に取り組む活動を側面から支援するとともに、それらによる連携PFの形成に向けた取組過程について調査・分析を行い、全国の地方公共団体に共有する調査研究事業を実施するものである。各自治体において求められる連携PFの絵姿や取組は、各自治体の位置づけ（広域自治体／基礎自治体等）や地域性、社会実態等に応じて異なることから、それら要素を総合的に俯瞰しつつ、目的に整合した取組となる側面支援が必要である。

官民を超えた連携を作っていくに当たり、当初は連携PFを主導するのは行政であるものの、その構成団体に含まれる過去から孤独・孤立に関連する社会課題解決や支援を行ってきた団体から行政が学ぶこともあることや、官民を問わず共通した社会課題に取り組む立場として各団体間で自立的な協力関係を構築する状態を実現する必要があることから、本連携PFは、参画する関係者が対等に相互につながる「水平型連携」を目指す。ついては、連携PFの構成団体が共通の立ち位置での検討を可能とするために、各団体からみた問題認識を共有し、共に対応すべき課題を設定の上、その解決のために各団体が何をできるか、といった視点が重要である。連携PFの構成団体は、本業の中で孤独・孤立に係る取組を行っていることも多く、個々の取組の中で既に価値提供を実現している場合もある。よって、本連携PFにおける取組においては、それら団体がつながることによってどのような新しい価値を創出できるか、といった観点から連携要素を導出する。具体的には、各団体における取組の課題や、活用可能なリソースを踏まえ「情報をつなぐ」「ノウハウを共有する」「協働する」といった観点から各団体の機能補完や、連携による新しい取組を作り出す余地について検討することが重要である。

### 1-3. 調査研究事業の実施体制

本業務に求められる専門性を有するコンサルタントによって検討チームを組成した。特に主たる業務従業者の多くが「地方公共団体を対象としたモデル事業への支援業務」の経験を有しており、地方公共団体への計画策定を含めた伴走支援やPMO支援といった本業務と類似する知見・経験を豊富に持つ。孤独・孤立について独自研究を行っているメンバーも体制に含み、本業務を効果的に進めることが可能な体制でプロジェクトチームを構成した。

加えて、弊社は「（北海道、関東②、北陸・東海②、九州②地域）」も受注しているため、両案件を統轄する業務責任者を置いて情報共有等を効果的に行う体制を組成した上で、それぞれの案件のとりまとめを行う担当技術者（リーダー）を設置した。その担当技術者（リーダー）のもと、自治体ごとに主担当を設定して各自治体の伴走支援を行った。

また、本調査研究においては、各自治体における孤独・孤立対策を前に進めるための試行的事業の発注を行うこととなっており、それら発注や精算に向けた事務手続きを着実に遂行する必要がある。よって、経理業務については、経験豊富な監査法人と必要に応じて連携し、効率的に対処できる体制を敷いた。

## 1-4. 調査研究事業の詳細(各自治体の活動で得られたこと)

### 1)官民連携 PF の組成

今年度より新たに孤独・孤立官民連携 PF に取り組む自治体においては、その目的、構成団体、取組内容等について検討が必要であったが、自治体の問題認識や社会実態等に応じた検討を通じて、関連する支援団体等へのアプローチを行い、孤独・孤立対策における取組課題について検討を開始した。

本調査研究業務を開始した時点で既に連携 PF が組成されていた自治体もあったが、その場合はより具体的な課題認識の共有を通じて、既存の取組や仕組みの高度化に向けた検討を行った。

### 2)試行的事業の実施

各自治体において、孤独・孤立対策を着実に前進させるための試行的事業の企画、発注を行った。企画においては、目指すべき孤独・孤立対策のゴールに対し、当該自治体が果たすべき役割を踏まえ、企画を行い、着実な検討と進捗管理を行った。

現状の各自治体における「試行的事業」の内容をマッピングしたところ、市町村、県・政令市とステイタスが異なっても、実態調査、広報活動、人材育成等、幅広い取組が進められようとしている。一方で、協議体としての取組は始まったばかり、もしくは今後初めていくところもあるため、引き続き支援団体や要支援者が抱えている課題や、支援ニーズの把握を通じて、連携プラットフォームとしての仕組みの高度化が必要。現状の取組を継続させるとともに、支援団体・要支援者等のニーズ把握を通じて、連携プラットフォームとしての仕組みの高度化が求められる。

今後とも、市町村からは住民と直接相対している基礎自治体の視点から県に課題認識を伝えていくと共に、県としては広域自治体としてより普遍的に必要とされるサポートの把握、実施につながるよう、今後とも両者の協働と役割分担といった観点から連携の在り方を模索していく必要がある。

図表 各自治体における試行的事業の整理マップ

| 自治体 |     | 知る → 企てる → つくる・つなげる・つたえる           |                                   |                                        |
|-----|-----|------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------------|
|     |     | R:Research<br>地域ニーズ・ニーズ把握          | P:Plan<br>合意形成<br>計画・構想策定<br>体制組成 | D:Do                                   |
|     |     |                                    |                                   | 支援提供 広報・周知                             |
| 1   | 仙台市 | ・支援団体に関する調査                        |                                   | ・普及啓発イベント<br>・アートによる会場装飾               |
| 2   | 座間市 |                                    |                                   | ・アートで繋がる場の創出<br>・啓発のための学習会             |
| 3   | 富山県 | ・実態把握調査<br>・NPO等における孤独・孤立にかかる取組み調査 |                                   | ・県民向け普及啓発イベント                          |
| 4   | 飯山市 | ・実態把握調査                            | ・地域資源の整理・連携体制の強化                  | ・支援団体とのモデル事業実証事業<br>・住民への普及活動          |
| 5   | 生駒市 | ・アウトリーチ調査の試行的実施                    |                                   | ・シンポジウムの開催<br>・ポータルサイトコンテンツ & ステッカーの作成 |

※自治体の並びは、自治体コード順

※上表は、本事業における「試行的事業」をマッピングしたもの。本事業以前に既に取り組んでいる、もしくは本試行事業の枠外で実施している事業は記載していない

### 3)各自治体が官民連携 PF に取り組む上での留意点・示唆集の作成

次年度以降、他の自治体が孤独・孤立対策に取り組む上で留意すべき事項を示唆集として取りまとめた。特に、連携 PF の組成については、これまで同様の取組をしたことのない自治体にとってはどのような手順や、工夫により検討を進めたらよいか、その指針となるものが必要となる。今年度、側面支援を行った自治体と、連携 PF 形成に向けた検討や、過去の取組の経緯について議論、ヒアリングする中で、連携 PF 形成に向けてどのような課題や工夫があったのかを把握することができた。それらを PF 形成フェーズと、課題のカテゴリーごとに整理することで、今後、他の自治体にとって参考となるよう取りまとめた。

詳細は第3章で記述するが、連携 PF の形成フェーズ、および課題ごとに各自治体の取組を整理したところ、大きな取組の方向性と示唆として以下が抽出された。

#### (ア) 初期段階

##### ① 主担当部署・主担当者の設定

- ・ 孤独・孤立対策は福祉政策の側面が強いため、これまでの重層、生活困窮支援などを担ってきた福祉部署が担当
- ・ 孤独・孤立対策は、庁内各課での連携が重要であり、庁内他部署につなぐ経験が豊富な部署、コアとなる部署が担当
- ・ 地域とのつながりがあり、地域の現状をよく理解した部署が担当
- ・ 全国版の PF や国の有識者会議等を参考とした
- ・ 庁内の経験部署、経験者の巻き込み

##### ② 地域課題・実態の概要の把握

- ・ 既存のアンケート調査等で問題の根拠となるデータを得ていた
- ・ 取組開始前に軽くサウンディング調査・情報照会を実施した
- ・ 日ごろから関係団体との情報交換を実施している
- ・ 庁内での情報連携のタイミングがあり、関係課と認識合わせを実施

##### ③ 連携 PF の運営形態の検討

- ・ 既存組織会議体との重複排除のため、既存の会議体を柔軟に活用、構成員も概ね引継ぎ
- ・ 新しいコンセプトで連携 PF を設立
- ・ 参加主体に重複はあるものの、連携 PF と重層の役割分担を整理
- ・ 連携 PF は立ち上げ済みであり、今年度は参加者の拡大を検討
- ・ これまでの福祉での連携を活かしつつ、福祉以外の分野の関係者との連携の枠組みを広げる
- ・ 分担等を整理し、地域に根差した複数の PF を構築することを目指す

#### (イ) 準備段階

##### ④ 地域課題の詳細調査

- ・ 支援団体への調査で課題を把握、リソース調査での支援団体の活動内容の把握
- ・ 住民の孤独・孤立に係る実態を把握するためのアンケート調査を実施した

- ・ コミュニティ・居場所づくり等の福祉外の活動団体から意見を把握
- ・ 孤独・孤立の中にある当事者の方の生声を聞く
- ・ 問題認識・理解向上を目的とした PF 構成員による勉強会や意見交換を実施
- ・ 庁内にもリサーチ、情報共有を図る

#### ⑤ 連携 PF の運営形態・体制の検討

##### ➤ 体制

- ・ 特定の支援対象者像・住民属性に焦点を当てた団体で体制を組む
- ・ 支援体制を検討する中で不足する機能を特定し、体制に含むことを検討
- ・ 既存の合議体をベースとすることで負荷を軽減した体制の構築を目指す
- ・ 広域自治体において、全域と地域の PF の方向性や役割分担についてあり方を整理

##### ➤ 活動内容

- ・ PF のメイン事業を決定し、孤独・孤立に関心のある団体やすでに取組を進めている団体を中心にメンバリングを図った
- ・ PF としての取組を活性化する観点から、行政が PF の取組を徒に狭めないよう必要な機能のみを提示
- ・ 居場所づくりに焦点を当てた取組を実施
- ・ PF 独自の新たな支援の創設を検討
- ・ 広報・情報提供を主軸とした活動を実施し、支援情報を一元的に発信するなど支援情報や活動の見える化を進める

#### ⑥ 連携 PF 参加者の検討・巻き込み

##### ➤ 庁内の巻き込み

- ・ 幅広い分野が関わることを前提に全庁など幅広く声がけを実施
- ・ 支援対象・テーマを受けて、関係が深く対応機能を有する部署に声掛け
- ・ 既存の会議体をベースに庁内への声がけを実施
- ・ 理念的な庁内連携だけではなく、具体的な事業ベースで協働の働きかけを実施
- ・ 庁内の関係課に情報をインプットし、共通認識の醸成、共感を得た
- ・ 孤独・孤立の入り口となる可能性のある関係課、窓口を持つ関係課への声掛け
- ・ 日常的なコミュニケーション、相互に協力する関係性を構築している

##### ➤ 庁外の巻き込み（検討方法）

- ・ 庁内の各部署と過去に連携経験・信頼関係があることを重視して検討、日ごろ関係する団体には随時情報をインプットする
- ・ 支援団体との意見交換を通じて、行政の発想にとらわれない PF 参画団体を検討
- ・ 活動のさらなる展開を狙いとして市域に留まらない広域の団体との連携体制を構築

##### ➤ 庁外の巻き込み（巻き込み方法）

- ・ キーパーソンを活用し、紹介をベースとした巻き込みを実施



- ・ リソース調査を活用し、声がけする団体を把握など、調査や情報発信をきっかけとした声がけを実施
- ・ 支援団体の活動に飛び込むなどの工夫で、新規のネットワークを開拓

## (ウ) 設立段階

### ⑦ 域内住民・関係団体への情報発信

#### ➤ 広報活動

- ・ 対象によっての広報ツールの使い分けが重要。これまでリーチできていない対象、今回注目したい対象に有効な手法を突き詰めて検討
- ・ 紙媒体の配布方法では、広報紙での大規模配布や孤独・孤立の入り口になりうるタイミングでアプローチするなど、配布方法、伝達方法を工夫
- ・ 内容を読みたくなる構成や、相談しやすいメッセージ、受け取りたくなるシールなど配布物の内容を工夫

#### ➤ イベントの開催

- ・ 開催場所の工夫、集客力のある会場選びや開場装飾で機運醸成、イメージ戦略
- ・ 有識者を呼び理解を深めるための研修会等を実施し、人材育成に取り組む
- ・ 関連イベントとの一体的なシンポジウムの実施による効果的な情報発信
- ・ 孤独・孤立対策に取り組む NPO や事業者等とのモデル事業実証実験として「だれでも食堂」を開催した
- ・ アートを起点とした情報発信の実施
- ・ 能登半島地震を受け、「災害時の孤独」をテーマにシンポジウムを開催
- ・ ノベルティ、グッズの配布で、家に帰った後も思い出してもらう、二次的な周知啓発の効果を期待

### ⑧ 連携 PF の運営

- ・ 連携 PF の会合においては、参加者同士の活動紹介やつながりづくりの場とする
- ・ 自治体は主に会合の開催を担い、参加者の課題の把握、ニーズのある活動を把握し、推進する
- ・ 2 層構造の中で、コアメンバーでの運営会議、それ以外のメンバーとのゆるいつながりづくりを予定している
- ・ PF 設置初期段階では、構成員間の取組の把握・問題意識の共有のほか、論点設定や事前の趣旨説明の丁寧な実施が肝要
- ・ PF において、新たな支援を一体的に実施することを検討する
- ・ 当初は自治体が主導し、他地域への横展開にむけたノウハウの獲得等を実施

## (エ) 自走段階

### ⑨ 今年度の積み残し課題

- ・ 持続可能性を考えた、今度の PF の運営主体の検討
- ・ 関係者の継続的な巻き込み、拡大
- ・ 参加者が重複する中での、重層との棲み分けの整理

- ・ 域内全体での取組の活性化に向けて、市民の巻き込み・周知を推進する
- ⑩ 来年度以降の方針
- ・ 初年度を取組から得られた知見をもとに、対象テーマの見直し、決定を進める
  - ・ 十分な理解のもと推進するため、継続的な情報発信、普及啓発
  - ・ 参加団体の拡大にむけた声かけ、福祉分野外への展開、支援対象者の拡大
  - ・ モデル地域でのノウハウのパッケージ化と地域への横展開
  - ・ PF の分科会設置、関連する施策との連携を検討
  - ・ 小規模都市ならではの孤独対策についても検討する
  - ・ 県として PF メンバーや支援情報のハブとなる機能を持ちつつ、PF を運営する
  - ・ 市内他地域への横展開にむけて、人材育成・予算確保を併せて進める

## 1-5. 本報告書の構成

本報告書は、以下の構成・概要による。

第1章は、先述の通り本調査研究における概要、目的、実施体制、調査研究事業の詳細（活動で得られたこと）等について記述した。

第2章は、内閣官房が公募し決定した5つの地方自治体ごとに取組の全体像、連携PFイメージ、試行的事業の一覧、他の自治体にとって参考となる留意点・示唆等について記述した。

第3章は、第2章で記述した連携PFの行程および実務上の留意点をベースに、PF形成フェーズ、および課題単位で各自治体の特筆すべき留意点・示唆の詳細を再構成、整理した。

## 1-6. 仕様書と本報告書の関係

仕様書と本報告書の関係は下表の通りである。基本的に、報告書の項目は、仕様書の各項目に対応して記述している。

| 仕様書項目                        |   | 本報告書項目                                                                               |
|------------------------------|---|--------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 地方自治体等の現状を踏まえた作業計画の策定・運営管理 | ⇒ | 第2章 事例集<br>「5. 自治体等との打合せ記録一覧」                                                        |
| ② 地方自治体等における孤独・孤立の問題の現状分析    | ⇒ | 第2章 事例集<br>「1. 取組の全体像」                                                               |
| ③ 連携PFの形成に向けた取組案の作成          | ⇒ | 第2章 事例集<br>「2. 連携PFイメージ」                                                             |
| ④ 連携PFの行程及び実務上の留意点の調査・分析     | ⇒ | 第2章 事例集<br>「4. 連携PFの行程および実務上の留意点」、「コラム ～地方の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携PFの重要性～」<br>第3章 留意点等示唆集 |
| ⑤ 孤独・孤立対策の試行的事業の実施と効果検証      | ⇒ | 第2章 事例集<br>「3. 試行的事業一覧」                                                              |

## 第2章 事例集

本章においては、内閣官房が公募し決定した仙台市、富山県、座間市、飯山市、生駒市、の5つの地方自治体における連携PFの形成に向けた取組やその過程で得られた実務上のノウハウや留意点等についての事例を記述している。具体的には、取組の全体像、連携PFイメージ、試行的事業の一覧、連携PFの行程および実務上の留意点、地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携PFの重要性についてのコラム、自治体等との打合せ記録一覧について、地方自治体ごとに表形式でまとめて記述している。

## 2-1. 仙台市

|     |   |     |
|-----|---|-----|
| No. | 1 | 仙台市 |
|-----|---|-----|

| 1. 取組の全体像                                                                                                                                                              |                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                             |                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 自治体の概要                                                                                                                                                              |                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                             |                                                                                                                                            |
| ①                                                                                                                                                                      | 自治体名                                    | 仙台市                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                             | ② 担当部局名 健康福祉局<br>総務課・社会課                                                                                                                   |
| ③                                                                                                                                                                      | 人口                                      | 1,097,196(人) <令和 2 年 10 月/国勢調査>                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                             |                                                                                                                                            |
| ④                                                                                                                                                                      | 自治体内連携                                  | 庁内連携<br>(メイン)                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 連携部局                                                                                                                                        | 健康福祉局 総務課・社会課                                                                                                                              |
|                                                                                                                                                                        |                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 連携内容                                                                                                                                        | 孤独・孤立対策の旗振り役、孤独・孤立対策に係る主要な施策の実施                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                        |                                         | 庁内連携<br>(メンバー)                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 連携部局                                                                                                                                        | 仙台市つながる支援連絡会議関係及び孤独・孤立対策関係課                                                                                                                |
|                                                                                                                                                                        |                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 連携内容                                                                                                                                        | 【仙台市つながる支援連絡会議関係課】<br>・ 事例の困難化、再困難化を防ぐために予防的な検討を行う(ケース支援検討会議)等<br>【仙台市つながる支援連絡会議及び孤独・孤立対策関係課】<br>・ 地方版連携 PF へ参画し、情報提供、情報共有、プリコラージュ思考の実践を行う |
| 2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿                                                                                                                                                   |                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                             |                                                                                                                                            |
| ①                                                                                                                                                                      | 従前の取り組み<br>※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等  | 各分野において、主に下記のような孤独・孤立対策に関連する事業も含め、必要な事業を多数実施<br>・ 「孤立させないつながる支援」を目的とした仙台市の重層的支援体制整備事業を開始し、その中で、社会福祉法および生活困窮者自立支援法に基づく支援会議を統合した「仙台市つながる支援連絡会議」を開催<br>・ 中高年のひきこもり者を対象に、安心して対人交流を行うことができる機会や支援プログラムを提供する居場所支援を実施<br>・ 高齢者のひとり暮らし等の方への支援として、見守り安否確認を兼ねた食の自立支援サービスや、ボタンひとつで警備会社へ連絡がつながる緊急通報システム機器の貸し出し等の公的サービスを実施 |                                                                                                                                             |                                                                                                                                            |
| ②                                                                                                                                                                      | 実現したい状態<br>※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境      | 最終的なゴール                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ・ 支援の必要な方を含めて誰一人取り残されることのない社会を目指して、関係者・団体との更なる連携強化を図り、孤独・孤立に悩む人が必要な支援を受けられる環境を作る。<br>・ 見守り、居場所づくりや交流の場づくりについて取り組み、人と人との「つながり」を実感できる地域づくりを行う |                                                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                        |                                         | 今年度のゴール                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | ・ アンケート調査実施による課題認識及び今後の方針案作成<br>・ イベント開催による機運醸成                                                                                             |                                                                                                                                            |
| 3. 地方版連携 PF における連携体制                                                                                                                                                   |                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                             |                                                                                                                                            |
| ①                                                                                                                                                                      | 地方版連携 PF<br>※各種団体が「水平的」「包摂的」に集う最も大きな枠組み | 参画メンバー                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | ・ 様々な分野の民間企業、NPO 法人、地域団体、学識経験者、庁内孤独・孤立対策関係課 等                                                                                               |                                                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                        |                                         | 選出・打診時の工夫                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ・ 仙台市つながる支援連絡会議関係及び孤独・孤立対策関係者・団体のネットワークを生かして、関係者・団体を増やしていく                                                                                  |                                                                                                                                            |
| ②                                                                                                                                                                      | 地域協議会<br>※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成           | 参画メンバー                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | ・ 各区保健福祉センター関係課、重層的支援体制整備事業にかかる委託事業者(多機関協働・アウトリーチ・参加支援) 等                                                                                   |                                                                                                                                            |
|                                                                                                                                                                        |                                         | 選出・打診時の工夫                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | ・ 主に重層的支援体制整備事業関係部署から選出                                                                                                                     |                                                                                                                                            |
| 4. PF 連携による価値や工夫_考え方                                                                                                                                                   |                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                             |                                                                                                                                            |
| ・ 情報提供→本市の支援の社会資源等の情報を集め、関係者・団体が利用できるように提供する(各種制度概要、交付金/補助金、(市)つながる支援連絡会議などの個別事例から地域課題を抽出しPF構成員に課題意識等の情報提供)<br>・ 情報共有→関係者・団体が実施するつながりを作る取り組み等について、枠組みを越えて情報共有を行うことで、既存 |                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                             |                                                                                                                                            |

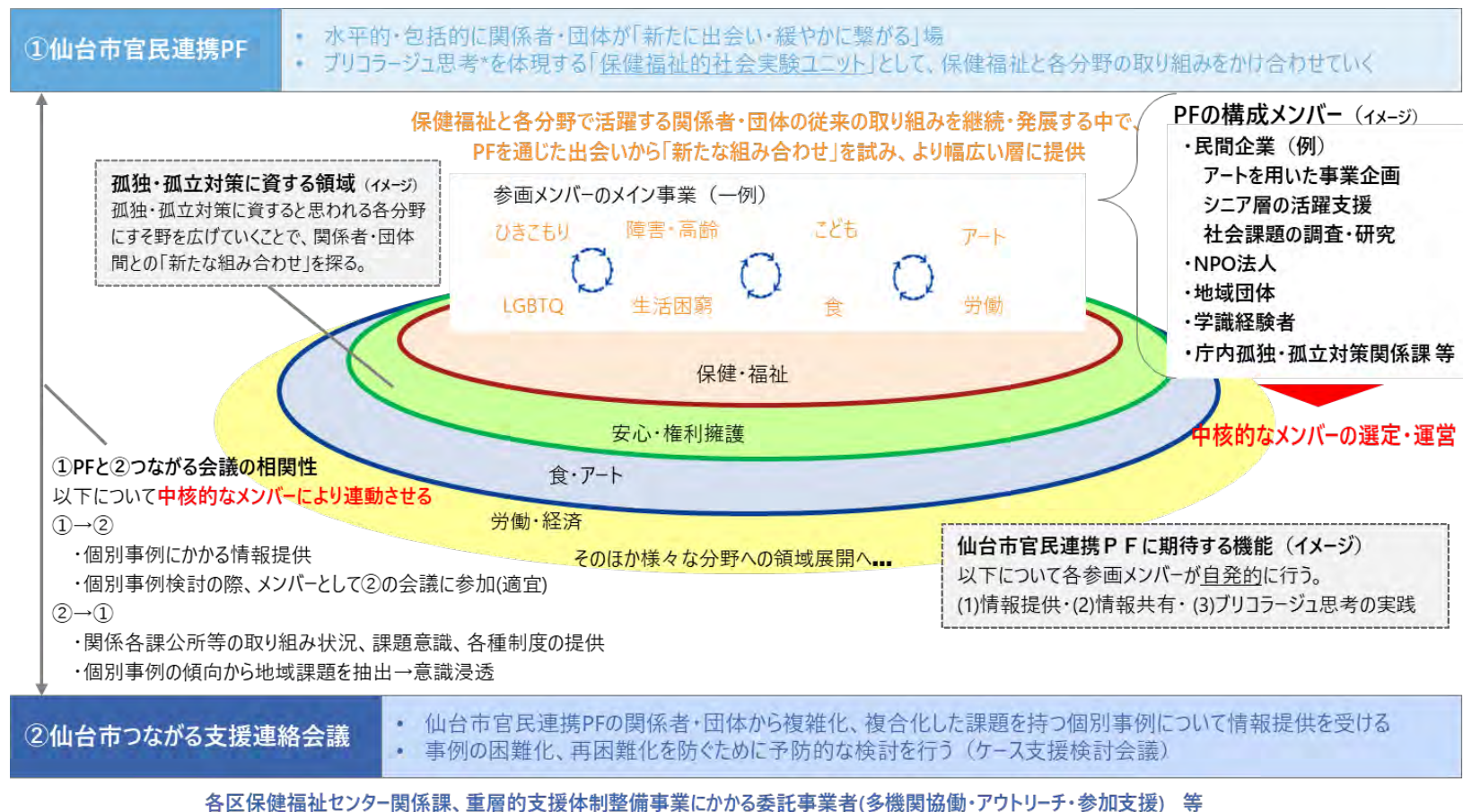
の交流の場の対象者を拡充させる機能を搭載し、より広い繋がりを創出する(参画メンバー間の情報交換会(交流会など)/勉強会)

- ・ プリコラージュ思考の実践→既に関係者・団体で実施している取り組みやネットワークを、本事業の観点から見つめなおし、新しい観点で効果的な掛け合わせを検証し、各種取り組みを実践する(参画メンバー間の情報交換会(交流会など)/勉強会/コラボ)

## 2. 連携 PF イメージ

### 5. 連携プラットフォームのイメージ図

※ブリコラージュ思考：今手元にある資源をしっかりと見つめなおし、新しい組み合わせを見つけることで「自分たちのオリジナル」を作る創造的な思考



#### (連携プラットフォームの内容説明)

仙台市における連携プラットフォームは、大きく2層構成で設計している。①仙台市官民連携PFは、水平的・包括的に庁内外多様な関係団体が緩やかに繋がるネットワークであり、ブリコラージュ思考を体現する「保健福祉的社会実験ユニット」として保健福祉と各分野の新たな組み合わせを目指す。②仙台市つながる支援連絡会議では、PFから複雑化、複合化した課題を持つ個別事例について情報提供を受け、事例の困難化、再困難化を防ぐために予防的な検討を行う。これら2層の組織体が上下に関係し合うことで効率的な情報共有と意識醸成、支援の提供を域内で進める。



| 3. 試行的事業一覧          |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                        |                         |              |
|---------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|--------------|
| 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要 |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                        |                         |              |
| 試行的事業のポイント・工夫       |             | <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の実態把握とそれに基づいた政策方針・連携 PF の機能の検討</li> <li>市民への支援提供に必要な支援団体等の掘り起こし・巻き込み</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                        |                         |              |
|                     | 事業名称        | 事業内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 目的/期待効果・KPI                                                                                                                                                                                                                                                            | 実施時期                    | 発注先(予算)      |
| ①                   | 支援団体調査      | <b>【調査対象】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の孤独・孤立対策関連の活動を行っていると思われる 454 団体</li> </ul> <b>【調査事項】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援団体について(属性・活動内容、孤独・孤立との関わり実績等)</li> <li>仙台市における孤独・孤立について(課題、行政への期待等)</li> </ul> <b>【設問数】</b> 17 問<br><b>【調査方法】</b> WEB 形式で回答(発出は郵送・メールの併用)                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>仙台市内における課題・ニーズの実態把握</li> <li>仙台市内で孤独・孤立の文脈で連携し得る支援団体の掘り起こし、巻き込み</li> </ul>                                                                                                                                                      | ✓2023 年 10 月～2024 年 3 月 | サーベイリサーチセンター |
|                     |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 孤独・孤立に関連する取組を行う支援団体の特定</li> <li>・95 団体</li> <li>➢ PF への参画意欲を示した支援団体</li> <li>・86 団体</li> <li>➢ 孤独・孤立に係る課題認識・ニーズの把握とそれを踏まえた政策方針の策定</li> </ul>                                                                    |                         |              |
| ②                   | 普及啓発イベント    | <b>【業務内容】</b> シンポジウムの開催(2 月、150 分)<br><b>【対象】</b> メインターゲット:支援団体、市民 / サブターゲット:庁内<br><b>【形式】</b> 対面 200 名規模、オンライン配信あり<br><b>【次第】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>開会あいさつ(副市長)</li> <li>基調講演               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 孤孤室 政策参与 大西連 氏</li> <li>➢ 株式会社ヘラルボニー 広報 矢野智美 氏</li> </ul> </li> <li>パネルディスカッション</li> <li>閉会あいさつ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立に関する理解度の向上</li> <li>孤独・孤立に支援を提供できる団体の掘り起こし・巻き込み</li> <li>仙台市として本格的に本テーマに取り組む旨の宣言</li> </ul>                                                                                                                                | ✓2023 年 12 月～2024 年 2 月 | 東北共立         |
|                     |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ シンポジウム参加者数</li> <li>・120 名(個人 65、行政 42、支援団体 13)</li> <li>➢ 孤独・孤立に関する理解度向上</li> <li>・深まったという回答が 86%</li> <li>➢ 連携 PF への参画意向</li> <li>・興味ありという回答が 49%</li> <li>➢ シンポジウムへの満足度</li> <li>・満足している方が全体の 82%</li> </ul> |                         |              |
| ③                   | シンポジウムの会場装飾 | <ul style="list-style-type: none"> <li>上記②のシンポジウムにおいて、会場装飾やノベルティの作成においてアートを活用</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジウムの価値向上</li> <li>多様な人々・支援団体に従来の保健福祉を超えたテーマの発信</li> </ul>                                                                                                                                                                    | ✓2023 年 12 月～2024 年 2 月 | ヘラルボニー       |
|                     |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <b>成果検証結果</b> 上記2同様                                                                                                                                                                                                                                                    |                         |              |

7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙

- ・ 庁内・庁外への孤独・孤立対策事業の啓発(R6～)
- ・ 中核的なメンバーの選定(R6)
- ・ 団体間の情報交換会(交流会など)(R6)
- ・ PF キックオフ(イベント開催も検討)(R7)
- ・ PF の中核的なメンバーによる情報交換システム確立(R8)

#### 8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ・ シンポジウム開催の新聞報道(2024 年 2 月 8 日河北新報朝刊)

## 4. 連携PFの行程および実務上の留意点

【大規模都市ならではの取組み】 ※下の留意点では、大規模都市ならではの取組みに **大規模都市** マーク記載

|                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 幅広い周知・機運醸成                 | <p>■<u>試行的事業としてシンポジウムを企画。従来の福祉の枠を超えた発想で多様な立場の団体に登壇してもらうことで孤独・孤立対策の理解度促進に努めた</u> <b>大規模都市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仙台市では、試行的事業としてシンポジウムを開催。開催に当たっては、従来の福祉的発想からの脱却・多様テーマの巻き込みを意図して、主に知的障害のある作家の描くアートを扱う企業に勤める元アナウンサーのインフルエンサーや、地域でシニアのお弁当作りを手掛ける企業の代表などへ登壇を依頼。</li> <li>・ この中に内閣官房孤独・孤立対策室の大西参与を加えることで、立場の異なる人間でも孤独・孤立対策という観点では繋がり得ること、またその重要性をメッセージとして打ち出した。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 横連携の庁内体制を構築する              | <p>■<u>大規模自治体ならではの縦割り組織の中で、試行的事業の実施プロセスで徐々に関係他部署との関係性を構築してきた</u> <b>大規模都市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 仙台市規模の自治体となると、庁内であっても組織体制は縦割りであり、他の部署との関係は弱く、巻き込みのハードルは高い。</li> <li>➢ よって、プレヒアリング調査時の関係団体の照会やアンケート調査時の支援団体の洗い出しなどの試行的事業の実施プロセスの中で徐々に関係他部署とのコンタクトを取ってきた。</li> <li>➢ また、試行的事業として開催したシンポジウムには、巻き込みたい関係他部署へも参加依頼を行った。さらには、重層的支援体制整備事業の基盤を活用することで関係が近い部局の巻き込みも行った。</li> </ul> <p>■<u>連携 PF の一員となり得る外部組織と連携したイベント企画により、福祉以外の庁内部署の巻き込みも狙う</u> <b>大規模都市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 孤独・孤立を名目とした説明会や情報交換会では、従来の福祉関連部署しか巻き込むことができないことに課題を感じていた。</li> <li>➢ そこで、孤独・孤立を名目としたイベントではなく、連携 PF で連携し得る庁外の外部組織を呼んだ情報交換会を開催することで、本来の福祉の枠を超えた部署の巻き込みを行った。</li> </ul> <p>■<u>庁内の福祉以外の関係部署の更なる巻き込みが必要</u> <b>大規模都市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 今年度の取組の中で関係を生み出し、徐々に構築してきたものの、まだそのネットワークは希薄。そもそも大規模自治体で縦割り思考が強い組織になっているため、継続的な巻き込みにより引き続き保健福祉以外の部局との連携を深めることを目指す。</li> </ul> |
| 域内リソース(支援団体、基礎自治体)の洗い出し・集約 | <p>■<u>アンケートの調査項目には、地域の問題意識や支援ニーズに加えて、連携 PF への参画意向を聞く質問も用意し、庁外組織の掘り起こしを意図した</u> <b>大規模都市</b></p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

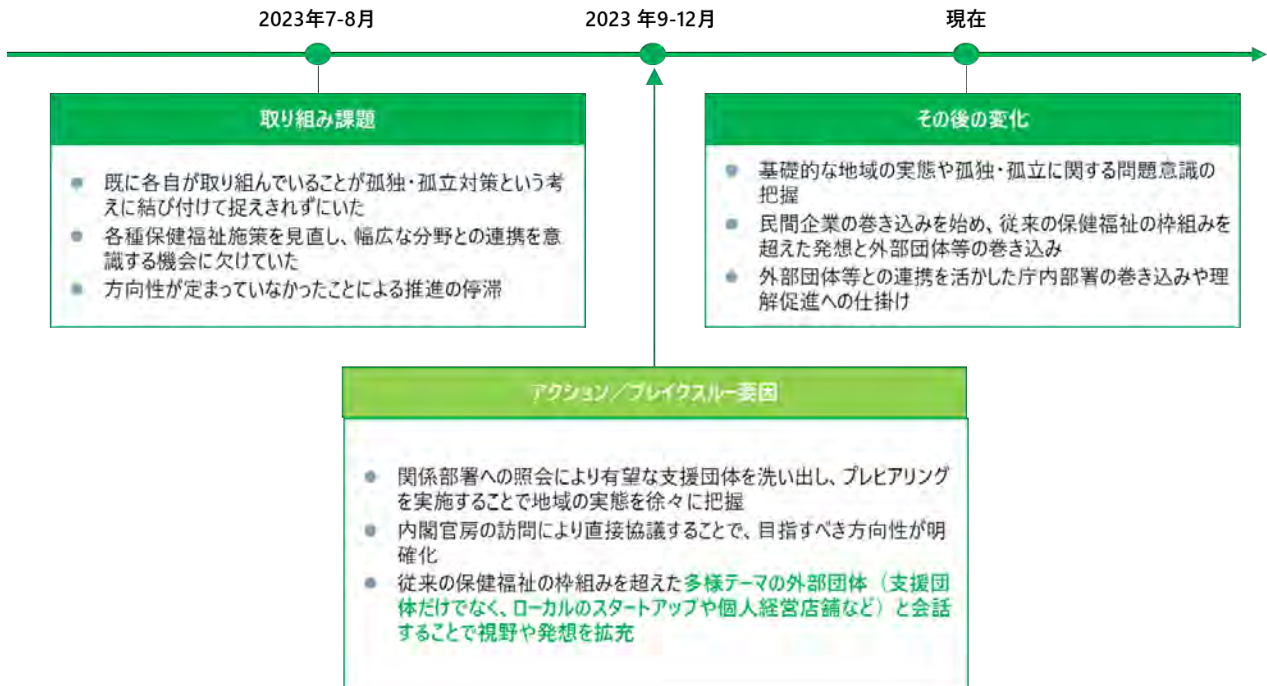
|                 |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----------------|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アンケート調査項目には、地域の問題意識や支援ニーズについての質問に加えて、今後構築を目指す連携 PF への参画への関心も聞くことで、連携し得る庁外組織の掘り起こしも行った</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| <b>(ア) 初期段階</b> |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ①               | 主担当部署・主担当者の設定 | <p>■福祉の所管部署で担当することとしつつ、福祉部局の中では、テーマを横断的に見ることができる部署を主担当とした</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 仙台市の福祉所管部署である健康福祉局の中で孤独・孤立対策を担当することになったが、その中では、比較的横断的にテーマを見ることが可能な総務課を主担当部署に設定した。</li> <li>➢ さらに、孤独・孤立対策を進める上では、従来から取り組んでいた重層的支援体制整備事業との連携を見据え、重層的支援体制整備事業の所管部署である社会課も主担当部署として参画した。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ②               | 地域課題・実態の概略の把握 | <p>■孤独・孤立対策の地域課題・実態把握が十分にできていない状態でのスタートであったため、まずは庁内照会を行い関係団体への聞き取りから地域の実態把握を開始</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 孤独・孤立対策への取組について、主担当は地域課題・実態把握が十分にできていない状態であるとともに、既に各自が取り組んでいることが孤独・孤立対策という考えに結び付けて捉えきれずにいた</li> <li>➢ まずは庁内照会を図り、孤独・孤立対策に関係しそうな支援団体をリストアップし、その中から特に実績を有する組織に対してプレヒアリング調査を実施し、地域の実態や支援団体のニーズの把握を行った。</li> </ul> <p>■本事業の採択後、内閣官房との意見交換の場を設けて、孤独・孤立対策の基本的な考え方やポイントについて理解を深めた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 仙台市は方向性が定まっていなかったことにより、推進が停滞していたために、本事業の採択後、内閣官房と対面での意見交換の場を設けた。</li> <li>➢ この場で孤独・孤立対策の連携 PF、試行的事業等について質疑応答も含めて協議することで、目指すべき方向性が明確化し、以後の本事業の設計に活かした。</li> </ul> |
| ③               | 連携 PF の絵姿の描写  | <p>■仙台市における連携プラットフォームは、その機能に応じて大きく2層構成で設計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 仙台市における連携プラットフォームは、大きく2層構成で設計している。<br/>①仙台市官民連携 PF は、水平的・包括的に庁内外多様な関係団体が緩やかに繋がるネットワークであり、ブリコラージュ思考を体現する「保健福祉的社会実験ユニット」として保健福祉と各分野の新たな組み合わせを目指す。</li> <li>➢ ②仙台市つながる支援連絡会議では、PFから複雑化、複合化した課題を持つ個別事例について情報提供を受け、事例の困難化、再困難化を防ぐために予防的な検討を行う。これら2層の組織体が上下に関係し合うことで効率的な情報共有と意識醸成、支援の提供を域内で進める。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                          |
| <b>(イ) 準備段階</b> |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ④               | 地域課題の詳細調査     | <p>■仙台市内に拠点を置く支援団体に対してアンケート調査を行い、地域の詳細把握を行った</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 内閣官房の NPO 法人ポータルサイトや仙台市の持つデータベースを基に、仙台市内に拠点を置く支援団体を整理した上でアンケート調査を実施した</li> <li>➢ アンケート調査は、郵送発送としつつ回答は紙媒体と Web 媒体の両面で可能とし、回答率を高める工夫を講じた。</li> </ul> <p>■アンケートの調査項目には、地域の問題意識や支援ニーズに加えて、連携 PF への参画意向を聞く質問も用意し、庁外組織の掘り起こしを意図した <b>大規模調査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アンケート調査項目には、地域の問題意識や支援ニーズについての質問に</li> </ul>                                                                                                                                                                                         |



|          |                    |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------|--------------------|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          |                    |    | 加えて、今後構築を目指す連携 PF への参画への関心も聞くことで、連携し得る庁外組織の掘り起こしも行った                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ⑤        | 連携 PF の運営形態・体制の検討  |    | <p>■<u>連携 PF の2層構成のうち、階層によって運営主体が異なる想定。特に庁外組織に運営主体を委ねるべき階層は、来年度以降の検討が必要</u></p> <p>➢ 上述の通り、仙台市の連携 PF は、2層構成を想定している。②仙台市つながる支援連絡会議(地域協議会として個別支援を提供)については、現在庁内で運営しているが、今後庁外での運営を想定。</p> <p>➢ ①官民連携 PF(庁外組織も多く巻き込んだ水平的・包括的ネットワーク)については、庁外組織による運営を想定しているものの、具体的な組織や運営方法についてまでの検討には及んでおらず、来年度以降の検討が必要。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| ⑥        | 連携 PF の参加者の検討・巻き込み | 庁内 | <p>■<u>大規模自治体ならではの縦割り組織の中で、試行的事業の実施プロセスで徐々に関係他部署との関係性を構築してきた</u><b>大規模都市</b></p> <p>➢ 仙台市規模の自治体となると、組織体制は縦割りであり、他の部署との関係は弱く、巻き込みのハードルは高い。</p> <p>➢ よって、プレヒアリング調査時の関係団体の照会やアンケート調査時の支援団体の洗い出しなどの試行的事業の実施プロセスの中で徐々に関係他部署とのコンタクトを取ってきた。</p> <p>➢ また、試行的事業として開催したシンポジウムには、巻き込みたい関係他部署へも参加依頼を行った。さらには、重層的支援体制整備事業の基盤を活用することで関係が近い部局の巻き込みも行った。</p> <p>■<u>連携 PF の一員となり得る外部組織と連携したイベント企画により、福祉以外の庁内部署の巻き込みも狙う</u><b>大規模都市</b></p> <p>➢ 孤独・孤立を名目とした説明会や勉強会では、従来の福祉関連部署しか巻き込むことができないことに課題を感じていた。</p> <p>➢ そこで、孤独・孤立を名目としたイベントではなく、連携 PF で連携し得る庁外の外部組織を呼んだ情報交換会を開催することで、本来の福祉の枠を超えた部署の巻き込みを行った。</p> |
|          |                    | 庁外 | <p>■<u>仙台市に拠点を置く支援団体に対して実施したアンケート調査にて孤独・孤立対策の共有と連携 PF への参画意向を聞き取り</u></p> <p>➢ 上述の通り、プレヒアリング調査やアンケート調査を通じて連携 PF に参画意向のある支援団体を掘り起こし。アンケート調査においては、86 先が連携 PF に関心があると回答した。</p> <p>■<u>連携 PF に巻き込みたい団体に対しては、主担当自らが直接アプローチ</u></p> <p>➢ 仙台市が企画していたシンポジウムでは、登壇者の属性を分けることで従来の福祉に留まらない多様なテーマとの連携の重要性を謳うことを目指していた。</p> <p>➢ 主担当は、このテーマに適した団体を自主的な調査等により見当を付け、直接足を運び会話をすることで、シンポジウムへの登壇の承諾を得た。ここでの連携をきっかけに、継続した連携 PF での関りを生み出していく。</p>                                                                                                                                                              |
| (ウ) 設立段階 |                    |    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ⑦        | 域内住民・団体への情報発信      |    | <p>■<u>試行的事業としてシンポジウムを企画。従来の福祉の枠を超えた発想で多様な立場の団体に登壇してもらうことで孤独・孤立対策の理解度促進に努めた</u><b>大規模都市</b></p> <p>➢ 仙台市では、試行的事業としてシンポジウムを開催。開催に当たっては、従来の福祉的発想からの脱却・多様テーマの巻き込みを意図して、主に知的障害のある作家の描くアートを扱う企業に勤める元アナウンサーのインフルエンサーや、地域でシニアのお弁当作りを手掛ける企業の代表などへ登壇を依頼。</p> <p>➢ この中に内閣官房孤独・孤立対策室の大西参与を加えることで、立場の異なる人間でも孤独・孤立対策という観点では繋がりが得ること、またその重要性をメッセージとして打ち出した。</p>                                                                                                                                                                                                                                         |

|          |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          |            | <p>■<u>シンポジウムの周知は、多様な媒体を通じて実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ シンポジウム開催の周知は、チラシ・ポスターの掲示・配布に加え、メディアへの広告掲載を行った。また、アンケート調査にて市からの孤独・孤立対策等に関する情報提供を希望すると回答した支援団体に対しては、シンポジウムの開催案内を送付した。加えて、上述の通り庁内でも関係部署へ参加依頼を行った。</li> <li>➢ 結果として、120名のシンポジウムへの来場参加があった。参加者属性の割合としては、個人が最も多く54%、次いで行政関係者が35%、支援団体が11%となった。</li> </ul> <p>■<u>アートを活用した会場装飾やノベルティで孤独・孤立が従来の福祉を超えたテーマである旨のメッセージ明確化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 従来の福祉の枠を超えた関係者の巻き込みという観点では、シンポジウムの登壇者の設計だけでなく、会場装飾やノベルティといった工夫も取り入れた。</li> <li>➢ 会場装飾としては、主に知的障害のある作家の描くアートの制作を手掛ける株式会社ヘラルボニーの仙台事業部と連携し、会場にアート作品を展示・装飾した。また、ノベルティとしてヘラルボニーのドリップバッグコーヒーや地元のシニアが作ったおにぎりを用意した。</li> </ul> |
| ⑧        | 連携 PF の運営  | <p>■<u>R5 年度は設立準備期間であり、連携 PF の本格運営は R6 年度以降。まずは、シンポジウムや外部組織と連携した情報交換会等の開催を行う</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ R5 年度については、庁内・庁外の巻き込みを目的に担当部署が主催でシンポジウムと情報交換会を開催し、多くの方に孤独・孤立の認知や自分事化を意図。</li> <li>➢ 庁内イベントに閉じずにいずれのイベントも外部団体を主役に沿えることで、庁内外の巻き込みやテーマの多様化を図った。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| (工) 自走段階 |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ⑨        | 今年度の積み残し課題 | <p>■<u>連携 PF の運営方針の検討が必要</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 連携 PF については、具体的な想定組織や運営スキーム等が検討できておらず、来年度以降の検討が必要である。</li> </ul> <p>■<u>庁内の福祉以外の関係部署の更なる巻き込みが必要</u> <b>大規模都市</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 今年度の取組の中で関係を生み出し、徐々に構築してきたものの、まだそのネットワークは希薄。そもそも大規模自治体で縦割り思考が強い組織になっているため、継続的な巻き込みにより引き続き保健福祉以外の部局との連携を深めることを目指す。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ⑩        | 来年度以降の方針   | <p>■<u>連携 PF の運営形態・体制の検討</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 連携 PF の運営については、試行的運営に向けた体制構築と運営方針の策定の本格検討を進める。</li> </ul> <p>■<u>連携 PF の試行的運営の継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 今年度は、連携 PF の設立準備として、シンポジウムの開催と庁外組織と連携した情報交換会の開催を行った。引き続き、これらの活動の継続による庁内外組織とのネットワークの拡充と域内における孤独・孤立対策の理解度促進を図る。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

| ブレイクスルー要因 |                     |                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           | アクション/<br>ブレイクスルー要因 | <ul style="list-style-type: none"> <li>関係部署への照会により有望な支援団体を洗い出し、プレヒアリングを実施することで地域の実態を徐々に把握</li> <li>内閣官房の訪問により直接協議することで、目指すべき方向性が明確化・自分事化</li> <li>従来の福祉の枠組みを超えた多様テーマの外部団体(支援団体だけでなく、ローカルのスタートアップや個人経営店舗など)と会話することで視野や発想を拡充</li> </ul> |



## コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

### 社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会

- ・ 社会福祉協議会(社協(しゃきょう))は、社会福祉法第 109 条に基づいて「地域福祉の推進」を図ることを目的に全国及び都道府県、市区町村単位に設置されている。
- ・ 仙台市社会福祉協議会は、「一人ひとりの市民が、その人らしく地域で安心していきいきと暮らせる福祉のまちづくり」を基本理念とし、市内 104 か所(令和 3 年 4 月現在)に結成された地区社会福祉協議会や町内会、民生委員児童委員などの地域の関係者、福祉団体・施設、ボランティア等の協力を得ながら、行政機関等と連携して市域におけるさまざまな福祉事業を進めている。

#### 🔍「孤独・孤立」という重い言葉とは裏腹に、キャッチーなテーマで繋がることが重要

- ・ 孤独・孤立の状態は、誰でも陥り得る。当然、生活困窮や障害といった福祉テーマが要因になることもあるが、例えば社会的立場が高いような人でも、自己実現や責任感に押しつぶされて、実は孤独・孤立であったといった相談は受けることも多い。
- ・ 孤独・孤立という言葉は、孤独死や孤立死を連想する少し重い言葉であり、要支援者も相談しづらい。相談が必要な重度に陥る前に、むしろ予防的な観点で孤独・孤立に陥りづらいまちづくりが行政として行えることが理想。
- ・ 例えば、趣味や恋愛のような少し柔らかいテーマでもいい。行政がそういう場を提供できなくても、これを楽しめる店舗やコミュニティのマップを見える化してもいいかもしれない。シニア向けのこうしたマップは良く作るが、若年層向けという発想はなかった。

#### 🔍大規模な都市であればあるほど、庁内における横連携は難しい。外部団体ともうまく連携しながら、庁内部署の動機付けを工夫しながら行っていくことが求められる

- ・ 仙台市役所は、規模が大きく組織としてはしっかりしているため、部署を横断した連携はしづらいように感じられる。自分の部署から少し遠いテーマへ挑戦するのはハードルが高いかもしれない。
- ・ 孤独・孤立対策を進める上では、多様なテーマを巻き込んでいく必要があり、その上では庁内の横連携も求められる。所管部署は、いかに他部署を動機づけることができるかがキーになるはず。庁内だけでなく、積極的に外部団体と連携し、力を借りていけばいいのではないかな。

#### 🔍要支援者にとっては、とにかく人と繋がり、話すことが一番の処方箋

- ・ 様々な相談を受ける中でも、やはり一番は相談を聞く、話すことによって改善することが多い。そういった意味では、仙台市内に居場所や人との繋がりを生み出す場をどんどん創出、あるいは見える化していけると良い。
- ・ 匿名性があることによって、通常話すことができない人でも話すことができるようになる。居場所や繋がりの中では、そういった匿名性にも配慮した仕組みがあると救われる人もいるのではないかな。



地域の活動者の皆さんと話し合う CSW(コミュニティソーシャルワーカー)

連携 PF により、多様な主体がつながりを広げ、それぞれに影響し合うことで、持続的かつ発展的な取組を増やしていきたい。そして、困ったときに手を伸ばせば、誰かにつながることができる地域をつくらしていきたい。

地域福祉課 地域福祉係  
大久保係長、近野主事



| 5.自治体等との打合せ記録一覧 |                         |                                          |                                                                       |          |
|-----------------|-------------------------|------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------|
| No.             | 日時                      | 打合せ相手団体                                  | 出席者                                                                   | NRI      |
|                 |                         |                                          | 打合せ相手                                                                 |          |
| 1               | 8/1(火)<br>13:00-14:30   | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課                   | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様、関様                                                   | 生駒、坂田、谷本 |
| 2               | 8/24(木)<br>10:00-11:00  | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課                   | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様、関様                                                   | 生駒、谷本    |
| 3               | 9/13(水)<br>12:00-13:00  | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課                   | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様、関様                                                   | 生駒、谷本    |
| 4               | 9/22(金)<br>11:00-12:00  | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課<br><br>内閣官房       | 川口地域福祉部長、<br>斎藤社会課長、近藤様、<br>中澤様、小野寺様、関様<br><br>松木参事官、荒川参事<br>官補佐、黒瀬主査 | 生駒、坂田、谷本 |
| 5               | 10/13(金)<br>16:00-17:00 | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課                   | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様、関様                                                   | 谷本       |
| 6               | 10/27(金)<br>14:00-15:00 | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課                   | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様、関様                                                   | 谷本       |
| 7               | 11/2(木)<br>13:30-15:00  | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課<br>サーベイリサーチセンター   | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様、関様<br>—                                              | 生駒、谷本    |
| 8               | 11/24(金)<br>10:00-11:00 | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課<br>サーベイリサーチセンター   | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様<br>—                                                 | 谷本       |
| 9               | 12/6(水)<br>14:00-15:00  | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課<br>東北共立<br>ヘラルポニー | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様<br>石川様<br>矢野様、田村様                                    | 生駒、谷本    |
| 10              | 12/14(木)<br>14:30-15:30 | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課<br>東北共立<br>ヘラルポニー | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様<br>石川様<br>矢野様、田村様                                    | 谷本       |
| 11              | 12/25(月)<br>13:00-14:30 | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課<br>東北共立<br>ヘラルポニー | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様、関様<br>石川様<br>矢野様、田村様                                 | 谷本       |
| 12              | 1/10(水)<br>16:30-17:30  | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課<br>東北共立<br>ユカリエ   | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様、関様<br>石川様<br>永野様                                     | 谷本       |
| 13              | 1/26(金)<br>15:00-16:00  | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課<br>東北共立           | 近藤様、中澤様、<br>小野寺様、関様<br>石川様                                            | 谷本       |
| 14              | 2/26(月)<br>10:00-11:00  | 仙台市役所 健康福祉局<br>総務課、社会課                   | 小野寺様、関様                                                               | 谷本       |



## 自治体による従前からの取組み

### ■ 重層的支援体制整備事業

(取組概要)

仙台市では、令和 5 年度から重層的支援体制整備事業を実施している。

地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、市町村において以下 3 つの支援を一体的に実施する。

- ① 高齢者や障害者といった本人や世帯の属性を問わない相談支援
- ② 就労や居住支援等による社会とのつながりを回復する参加支援
- ③ 地域社会からの孤立を防ぎ、交流や活躍の機会を生み出す地域づくりに向けた支援

これら 3 つの支援を一層効果的・円滑に実施するため、以下 2 つの機能を強化します。

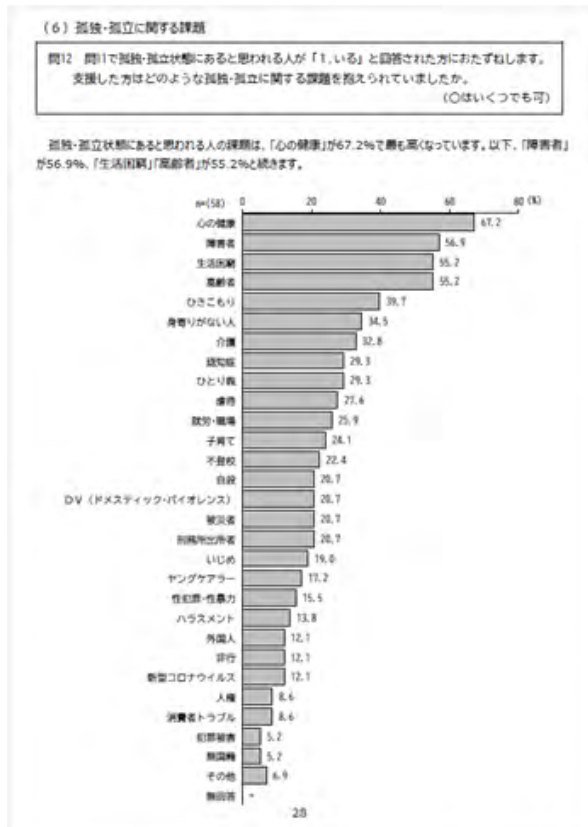
- ・ 支援が届いていない人を把握し、支援を届けるアウトリーチ等を通じた継続的支援
- ・ 複雑化・複合化した事例について整理・調整・役割分担等を行う多機関協働による支援

## 試行的事業

### ① 支援団体調査

|                 |                                                                                                                                                                                      |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概要              | <ul style="list-style-type: none"> <li>調査対象者：市内の孤独・孤立対策関連の活動を行っていると思われる 454 団体</li> <li>調査方法：アンケート調査票の郵送による配布、WEB 併用回収</li> <li>調査期間：2023 年 12 月 18 日(月)～2024 年1月 19 日(金)</li> </ul> |
| 結果              | <ul style="list-style-type: none"> <li>配布数：454 票</li> <li>回収数：132 票</li> <li>回収率：29%</li> </ul>                                                                                      |
| 工夫点             | <ul style="list-style-type: none"> <li>調査項目は、支援団体(拠点地域、支援内容など)と孤独・孤立の実態(孤独・孤立の要因、課題、国・行政への期待)の 2 階層計 17 問で設計</li> <li>単純な課題や実態把握を目的の調査ではなく、支援団体の連携 PF への巻き込みを見据えた質問設計を行った</li> </ul> |
| ねらい             | <ul style="list-style-type: none"> <li>仙台市内における課題・ニーズの実態把握</li> <li>仙台市内で孤独・孤立の文脈で連携し得る支援団体の掘り起こし、巻き込み</li> </ul>                                                                    |
| 仙台市における孤独・孤立の実態 |                                                                                                                                                                                      |

- 孤独・孤立状態にあると思われる人の課題は、「心の健康」が 67.2%で最も高く、次点で「障害者」が 56.9%、「生活困窮」「高齢者」が 55.2%と続く
- 仙台市において、孤独・孤立状態にあると思われる人に対して支援実績がある支援団体の支援事例として、もっとも多かったのは「カウンセリング等」で 29 件、次点で「適行政や適切なサービスへつなぐ等」が次点で 28 件



(7) 支援事例、成果、課題

問13 問11で孤独・孤立状態にあると思われる人が「1.いる」と回答された方におたずねします。孤独・孤立に関連のあると思われる主な支援事例、成果および課題(支援の成功事例や支援が難しかった事例等)を可能な範囲でご記入ください。(自由回答)

自由にご記入いただいた回答を、支援事例の支援対象者と内容について分類し、件数を集計しています。132団体中、問13の自由記述で回答があった50団体から、合計91件の支援事例をもご記入いただきました。ただし、複合的な問題・対象者の場合は重複カウントしているため、件数は一致しません。

| 支援対象者     | 件数 | 支援事例(内容)                 | 件数 |
|-----------|----|--------------------------|----|
| 生活困窮      | 20 | カウンセリング/ 話を聞く(話し合い)/悩み相談 | 29 |
| 心の健康      | 17 | 行政や適切なサービスへつなぐ/自立支援      | 28 |
| 高齢者       | 16 | 居場所の提供/一時保護              | 19 |
| 子育て       | 15 | 住まいサポート/住居支援             | 11 |
| 身寄りがいない人  | 13 | 就労/就職支援                  | 10 |
| ひきこもり     | 9  | 場所や機会の提供/サロン・イベント開催      | 7  |
| 介護        | 8  | 食事の提供/子ども食堂/フードバンク       | 6  |
| 障害者       | 7  | 生活支援/相談                  | 5  |
| 就労・職場     | 6  | 付き添い/同行支援                | 5  |
| 前科刑出所者    | 6  | その他                      | 18 |
| 認知症       | 5  |                          |    |
| 子ども本人     | 5  |                          |    |
| 被災者       | 4  |                          |    |
| DV        | 3  |                          |    |
| 性被害・性暴力   | 3  |                          |    |
| 不登校       | 2  |                          |    |
| ひとり親      | 2  |                          |    |
| 犯罪被害      | 2  |                          |    |
| 自殺        | 1  |                          |    |
| いじめ       | 1  |                          |    |
| 外国人       | 1  |                          |    |
| 消費者トラブル   | 1  |                          |    |
| ヤングケアラー   | 1  |                          |    |
| 新型コロナウイルス | 1  |                          |    |
| その他       | 16 |                          |    |

## 連携 PF への興味、行政への期待

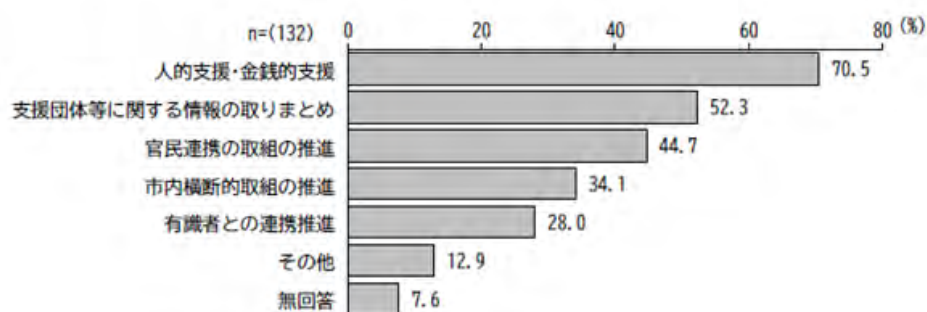
- ・ 官民連携プラットフォームへの参画は、「興味がある」が 86 団体
- ・ 国・市へ期待することは、「人的支援・金銭的支援」が 70.5%で最も高い。以下、「支援団体等に関する情報のとりまとめ」が 52.3%、「官民連携の取組の推進」が 44.7%と続く

### (10) 国・市へ期待すること

問16 孤独・孤立問題への取組において、国・市へ期待することを選択してください。  
(〇はいくつでも可)

国・市へ期待することは、「人的支援・金銭的支援」が70.5%で最も高くなっています。以下、「支援団体等に関する情報のとりまとめ」が52.3%、「官民連携の取組の推進」が44.7%と続きます。

また、「その他」の意見では専門機関の設置や、ワンストップ体制、つなげる仕組み構築などの回答がありました。



## ② 普及啓発イベント

|     |                                                                                                                                                                                                          |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概要  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名称: 仙台市孤独・孤立シンポジウム<br/>～人と人、人と社会とがつながることができる地域社会へ～</li> <li>・ 日程: 2024 年 2 月 6 日(火)会場 13:30、開会 14:00、閉会 16:30</li> <li>・ 会場: 仙台市中小企業活性化センター 多目的ホール</li> </ul>   |
| 結果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来場人数: 120 名<br/>(個人 65、行政 42、支援団体 13)</li> </ul>                                                                                                                |
| 工夫点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従来の保健福祉を超えたテーマの巻き込みと同様のメッセージの発信</li> <li>・ そのための登壇者の設計(主に知的障害のある作家の描くアートを扱う企業、地域シニアによる弁当販売事業を行う企業等)や会場装飾</li> <li>・ 参加できなかった方向けのオンライン配信予定(せんだい tube)</li> </ul> |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立に関する理解度の向上</li> <li>・ 孤独・孤立に支援を提供できる団体の掘り起こし・巻き込み</li> <li>・ 仙台市として本格的に本テーマに取り組む旨の宣言</li> </ul>                                                            |

## 仙台市における孤独・孤立の実態

- ・ 開会あいさつ(副市長)
- ・ 第1部:基調講演
  - ・ 「孤独・孤立問題の現状と対策の方向性」 内閣官房孤独・孤立対策担当室 政策参与 大西 連 氏
  - ・ 「多様性を見つめることから始まる心地よい社会」 株式会社ヘラルボニー 広報 矢野 智美 氏
- ・ 第2部:パネルディスカッション
  - ・ コーディネーター:内閣官房孤独・孤立対策担当室 政策参与 大西 連氏
  - ・ パネリスト:株式会社ヘラルボニー 広報 矢野 智美 氏
  - ・ パネリスト:株式会社ユカリエ代表取締役社長／株式会社ジーバー代表取締役 CEO 永野 健太 氏
  - ・ パネリスト:一般社団法人パーソナルサポートセンター業務執行常務理事 / NPO 法人ワンファミリー仙台理事長 立岡 学 氏
- ・ 閉会あいさつ

**登壇者プロフィール**

**講師・コーディネーター**

**大西 連氏** 内閣官房孤独・孤立対策担当室政策参与

認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい理事長、新宮ごはんプラス共同代表。  
20代前半より、ホームレス状態の方や生活困難された方への相談支援に関わる。  
また、生活保護や社会保険制度などの問題について、現場からの声の発信や政策提言をおこなう。  
令和3年6月より内閣官房孤独・孤立対策担当室政策参与に就任。



**講師・パネリスト**

**矢野 智美氏** 株式会社ヘラルボニー 広報

2015年にテレビ番組にアナウンサーとして入社。2016年から2022年まで「5きんテレビ」でメインキャスターを務める。福岡市の住所として暮らし、神子田親市を2年に渡って取材するなど自らディレクターとしても活躍。2023年株式会社ヘラルボニー(株)に入社。ヘラルボニーの本社がある「若手ヘラルボニーの聖地」にするため、若手コミュニティマネージャーに就任。  
(※)主に知覚障害のある市民の遠くアートワークを鑑賞に訪ねるという「障害のイメージを変えること」を目指すスタートアップ。



**パネリスト**

**永野 健太氏** 株式会社ユカリエ 代表取締役社長 / 株式会社ジーバー 代表取締役CEO

北海道市出身。2015年宮城県にて不動産会社の立ち上げに参画。2020年のコロナ流行を機に「世の中にもっと意味のある事業をしよう」と決意。2022年には仙台市太白区長町にて、地元のシニア世代が、毎日手作りのお弁当やお惣菜を作って地域へお届けする「ジーバーFOOD」事業をスタート。現在は、ジーバーFOODの全国展開をはじめ、一人でも多くの人がより豊かに歳を重ねていける社会をつくるため「人生最後の日まで続ける」おしごと「ネットワーク」を世界中に広げることを目指して奮闘中。



**パネリスト**

**立岡 学氏** 一般社団法人パーソナルサポートセンター 業務執行常務理事 / NPO法人ワンファミリー仙台 理事長

宮城県仙台市出身。2002年、ホームレス支援をおこなう任意団体「ワンファミリー仙台」を設立。2006年7月、NPO法人化し理事長に就任。2011年、一般社団法人パーソナルサポートセンターを設立し、東日本大震災の被災者支援に関わる。現在、業務執行常務理事。また2017年に合同会社PSCプラスを設立し、住まいに困っている人のための不動産事業を展開。主な公職として仙台市社会福祉審議会委員、仙台こども財団理事などを務める。



■開会挨拶-1

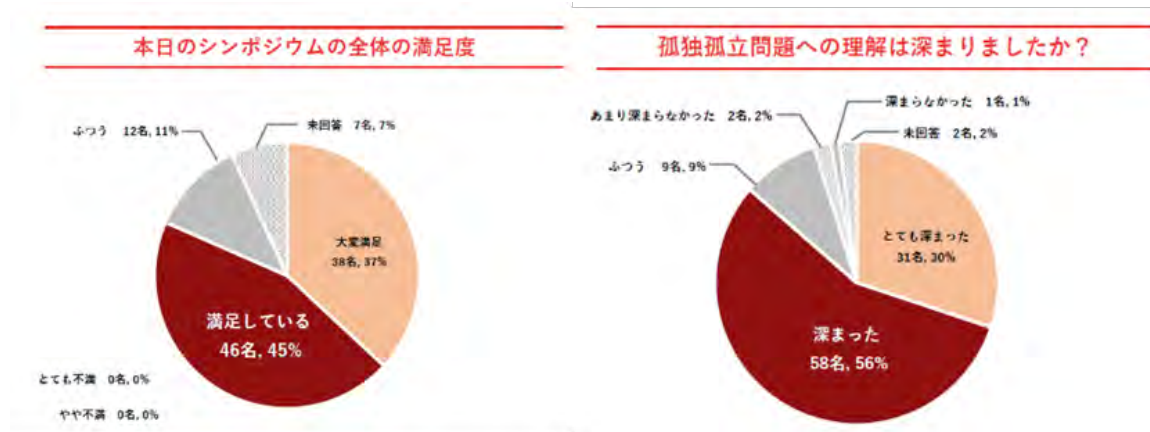


■パネルディスカッション-2



## アンケート調査

- ・ シンポジウム後のアンケート調査においては、下記の通り、満足度や孤独・孤立に対する理解度などの向上という観点で高い成果が得られた。
  - ・ 孤独・孤立に関する理解度向上 → 深まったという回答が 86%
  - ・ 連携 PF への参画意向 → 興味ありという回答が 49%
  - ・ シンポジウムへの満足度 → 満足している方が全体の 82%
- ・ 自由記述では、全体的な満足度が高く、多様なパネリストから多角的な視点で孤独・孤立について考えられる時間になった点に触れられるコメントが多かった。



### 【シンポジウムへのご意見・ご参考(抜粋、原文ママ)】

- ・ 会場の雰囲気がポップで、お土産もメッセージ性があり、関心を持って楽しく勉強させていただきました。様々な分野の方の話を伺える場を行政主体でつくっていただけると大変ありがたいです。
- ・ それぞれのパネリストからの異文化が新鮮でした。共通の問題も多くあり、自身の仕事へのヒントが得られたように思います。仙台市さんの発信力と市民への働きかけの上手さを感じました。
- ・ NPO で困窮世代の子ども支援に携わっております。より幅広い視点から貧困問題について考えるきっかけとなればと思い参加しました。皆様のお話にうなずける点や新しい視点を沢山いただくことができました。大変勉強になりました。ありがとうございます。
- ・ 異分野の方々の話が聞けて良かった。孤独孤立解消の目的によらなくとも結びつくことが多くある。取り組みの幅が必要。

## ③ シンポジウムの会場装飾等

|     |                                                                                                                 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概要  | ・ シンポジウムにおいて、会場装飾やノベルティの作成においてアートを活用                                                                            |
| 結果  | ・ 来場人数:120 名<br>(個人 65、行政 42、支援団体 13)                                                                           |
| 工夫点 | ・ 主に知的障害のある作家の描くアートを活用して新たな文化創出を目指す株式会社<br>ヘラルボニーとの連携<br>・ メッセージ性のある会場デザイン、ノベルティとすることでシンポジウムで伝えたいメ<br>ッセージの後押しに |
| ねらい | ・ シンポジウムの価値向上<br>・ 多様な人々・支援団体に従来の保健福祉を超えたテーマの発信                                                                 |



## 会場装飾(主に知的障害のある作家の描くアート)

- ・ 主に知的障害のある作家の描くアートをシンポジウムの会場に展示、装飾
- ・ 孤独・孤立に係るテーマの多様性について理解拡充を図った



## ノベルティ

- ・ 株式会社ジーバーが運営するジーバーFOOD のおにぎりを配布。ジーバーFOOD は、地元のシニア世代が毎日手作りのお弁当やお惣菜を地域へ届ける事業
- ・ 株式会社ヘラルボニーが制作した主に知的障害のある作家の描くアートを活用したドリップバッグコーヒーの配布

|      |               |
|------|---------------|
| 提供元  | ジーバーFOOD様     |
| 配布物  | おにぎり 梅ごぼう梅    |
| 数量   | 220個          |
| 納品時期 | 2月6日(水) 12:00 |



|      |                                           |
|------|-------------------------------------------|
| 提供元  | ヘラルボニー様                                   |
| 配布物  | NagasakiCOFFEE × HERALBONY<br>ドリップバッグコーヒー |
| 数量   | 220個 (4個人×55個)                            |
| 納品時期 | 10月15日(水) へき研発送                           |



## 2-2. 富山県

|     |   |     |
|-----|---|-----|
| No. | 1 | 富山県 |
|-----|---|-----|

### 1. 取組の全体像

#### 1. 自治体の概要

|   |        |                            |          |                           |          |
|---|--------|----------------------------|----------|---------------------------|----------|
| ① | 自治体名   | 富山県                        | ②        | 担当部局名                     | 厚生部厚生企画課 |
| ③ | 人口     | 1,034,814(人)＜令和2年10月/国勢調査＞ |          |                           |          |
| ④ | 自治体内連携 | 庁内連携<br>(メイン)              | 連携<br>部局 | 厚生部高齢福祉課、こども家庭室、健康課、障害福祉課 |          |
|   |        |                            | 連携<br>内容 | 連携を想定している担当課へ個々に情報共有      |          |
|   |        | 庁内連携<br>(メンバー)             | 連携<br>部局 | 教育委員会、知事政策局、生活環境文化部       |          |
|   |        |                            | 連携<br>内容 | 連携を想定している担当課へ個々に情報共有      |          |

#### 2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿

|   |                                        |                                                                                                                                                                 |  |                                                                                                                                                                         |  |
|---|----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| ① | 従前の取り組み<br>※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>自殺対策ポータルサイト「タッチハート」の運営</li> <li>「こころの電話」相談の24時間・365日運営</li> <li>市町村等における重層的支援体制構築に向けた支援</li> <li>ヤングケアラーの実態調査</li> </ul> |  |                                                                                                                                                                         |  |
| ② | 実現したい状態<br>※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境     | 最終的なゴール                                                                                                                                                         |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な分野の支援団体がつながりを構築し、支援者同士で情報共有・意見交換できる環境</li> <li>様々な分野の団体がPFに参画することで、参画団体同士が連携した新たな取組みが生まれ、孤独・孤立に陥っても声をあげやすい、かけやすい地域</li> </ul> |  |
|   |                                        | 今年度のゴール                                                                                                                                                         |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な支援団体をつなぐ基盤となるPFの構築</li> <li>官民の孤独・孤立に係る取組みや相談窓口を把握し、県HPに一元化することにより県民へ周知</li> </ul>                                            |  |

#### 3. 地方版連携 PF における連携体制

|   |                                        |           |                                                                                                          |  |  |
|---|----------------------------------------|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| ① | 地方版連携PF<br>※各種団体が「水平的」「包摂的」に集う最も大きな枠組み | 参画メンバー    | <ul style="list-style-type: none"> <li>NPO法人等の支援団体、孤独・孤立に関係する各分野の既存会議等の構成員、市町村等</li> </ul>               |  |  |
|   |                                        | 選出・打診時の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後実施するNPO等の活動調査の結果をもとに、孤独・孤立の分野に限らず、広くNPO法人等へ参画を呼びかける。</li> </ul> |  |  |
| ② | 地域協議会<br>※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成          | 参画メンバー    | <ul style="list-style-type: none"> <li>未定</li> </ul>                                                     |  |  |
|   |                                        | 選出・打診時の工夫 | <ul style="list-style-type: none"> <li>未定</li> </ul>                                                     |  |  |

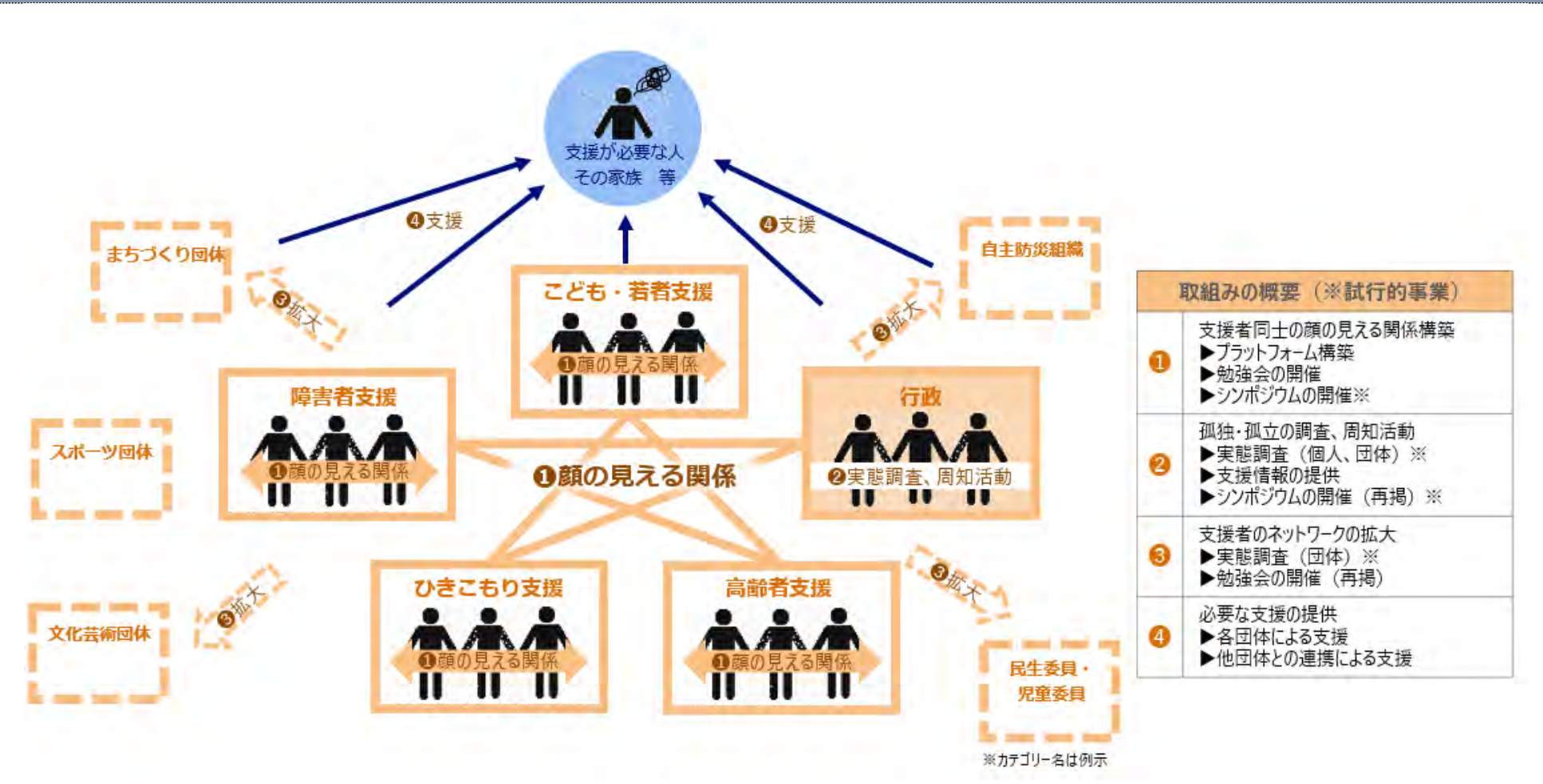
#### 4. PF 連携による価値や工夫\_考え方

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |  |  |  |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立に陥っている方に対し、切れ目のない支援をつなげるため、勉強会等を通して支援団体同士の顔の見える関係づくりを進め、連携強化を図る。</li> <li>福祉以外の分野の団体にも参画を促し、地域の様々な団体が緩やかにつながることによって、孤独・孤立に陥っている人が適切な支援団体につながるとともに、孤独・孤立に陥らない予防的な観点からも孤独・孤立対策を進めることができる基盤を構築する。</li> <li>若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会、富山大学立瀬助教など、専門的な観点から助言をいただき、適宜相談しながらPF形成を進める。</li> </ul> |  |  |  |  |  |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|--|--|



## 2. 連携 PF イメージ

### 5. 連携プラットフォームのイメージ図



#### (連携プラットフォームの内容説明)

富山県における連携プラットフォームは、2層構造(①PF 自体の運営を考えるコアメンバー、②ゆるいつながりをつくり、気軽に参加できるメンバー)を検討している。①のコアメンバーは、初期段階では行政が主体となり、子ども・若者支援、障害者支援、ひきこもり支援、高齢者支援などを行う、福祉関連の団体を検討している。②のメンバーとしては、福祉関連の団体の他、スポーツ団体、文化芸術団体、自主防災組織等の福祉分野外の団体への巻き込みを検討している。

| 3. 試行的事業一覧          |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                       |                   |                        |
|---------------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|------------------------|
| 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要 |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                       |                   |                        |
| 試行的事業のポイント・工夫       |                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立問題の県民への認知拡大を図りつつ、既存の会議体構成員に加えて、PF に参画する新たな団体を発掘し、PF 参画団体間の交流をも促進する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                       |                   |                        |
|                     | 事業名称                    | 事業内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 目的/期待効果・KPI                                                                                                                                                                                           | 実施時期              | 発注先(予算)                |
| ①                   | 孤独・孤立に関する調査             | <b>【調査対象及び調査対象者数】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>富山県に居住する 16 歳以上の個人 2,000 人</li> <li>4 地域(富山、高岡・射水、新川、砺波)×年代の割付が実際の富山県の人口分布と比例するように回収数を調整</li> </ul> <b>【調査事項】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独に関する事項、孤立に関する事項、その他関連事項、属性事項</li> </ul> <b>【設問数】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>31 問</li> </ul> <b>【調査方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>WEB 形式で回答</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>4 地域毎・年代毎の特徴を把握</li> <li>シンポジウムで当該調査結果を報告することで、住民への普及啓発に努める</li> </ul>                                                                                         | ✓2023 年 10 月      | サーベイリサーチセンター(約 400 万円) |
|                     |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内における孤独層の特定(男性 40 代、女性 30 代が孤独を感じていることが判明)</li> <li>孤独感が高い方は「相談しても無駄である(相談しても解決しない)」「相談すると相手の負担になる」「相談することは恥ずかしい」と感じている方が多い</li> </ul>          |                   |                        |
| ②                   | NPO 等における孤独・孤立にかかる取組み調査 | <b>【調査対象及び調査対象者数】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内の約 700 程度の NPO 法人、社会福祉法人、一般社団法人等に配布し、193 団体から回答</li> </ul> <b>【調査事項】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容、人とのつながりや孤独・孤立に関連する取組の有無、PF への参画以降等</li> </ul> <b>【調査方法】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>郵送で調査票を配布し、郵送及びオンライン上で回答できるよう配慮</li> </ul> ※アンケートの設計にあたり、県内の孤独・孤立の取組に関連する NPO 法人へのプレヒアリングを行った。                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>県内の孤独・孤立 PF に関連する取組を実施する団体の把握、官民 PF に参画意向のある団体等の発掘</li> </ul>                                                                                                  | ✓2023 年 11 月～12 月 | JEC 経営コンサルタント(約 77 万円) |
|                     |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>8 割超が「孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性を感じる」と回答</li> <li>孤独・孤立対策に資する活動として約 4 割(119 団体)が「居場所づくり」、約 3 割(85 団体)が「相談窓口の設置」、約 1 割(36 団体)がアウトリーチ支援を実施している</li> </ul> |                   |                        |
| ③                   | 県民向け普及啓発イベント            | <ul style="list-style-type: none"> <li>1,2 の調査の結果報告</li> <li>大西参与による基調講演</li> <li>支援団体、学識、個人で活動されている方を招いたパネルディスカッション</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>富山県として孤独・孤立を重要かつ誰にでも起こりえる身近な社会課題と認識していることを普及啓発する</li> </ul>                                                                                                    | ✓2024 年 2 月 21 日  | PCO(約 300 万円)          |
|                     |                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | <b>成果検証結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>会場参加者数 57 人(団体 36 人、一般 21 人)、オンライン申込者 54 人(団体 35 人、一般 19 人)でアンケート回答者の約 9 割が「満足」と回答</li> </ul>                                                    |                   |                        |

|                                                                                                                                                                                    |  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 7. 次年度以降に向けた事業等の案                                                                                                                                                                  |  |
| ※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙                                                                                                                                         |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NPO 団体等との意見交換において支援団体間のつながりを強化する必要があることが分かったため、PF 参画団体間の更なる交流促進を目的とした勉強会を開催予定</li> </ul>                                                  |  |
| 8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響                                                                                                                                                                |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民向け普及啓発イベント参加者からは、「孤独や孤立を防ぐための活動をする人たちのつながりも重要」や「様々な分野の人がつながり、同じ目線で考えることの大切さを改めて感じ、一見、接点のない分野の方々とも今後積極的につながっていききたい」という意見があった。</li> </ul> |  |

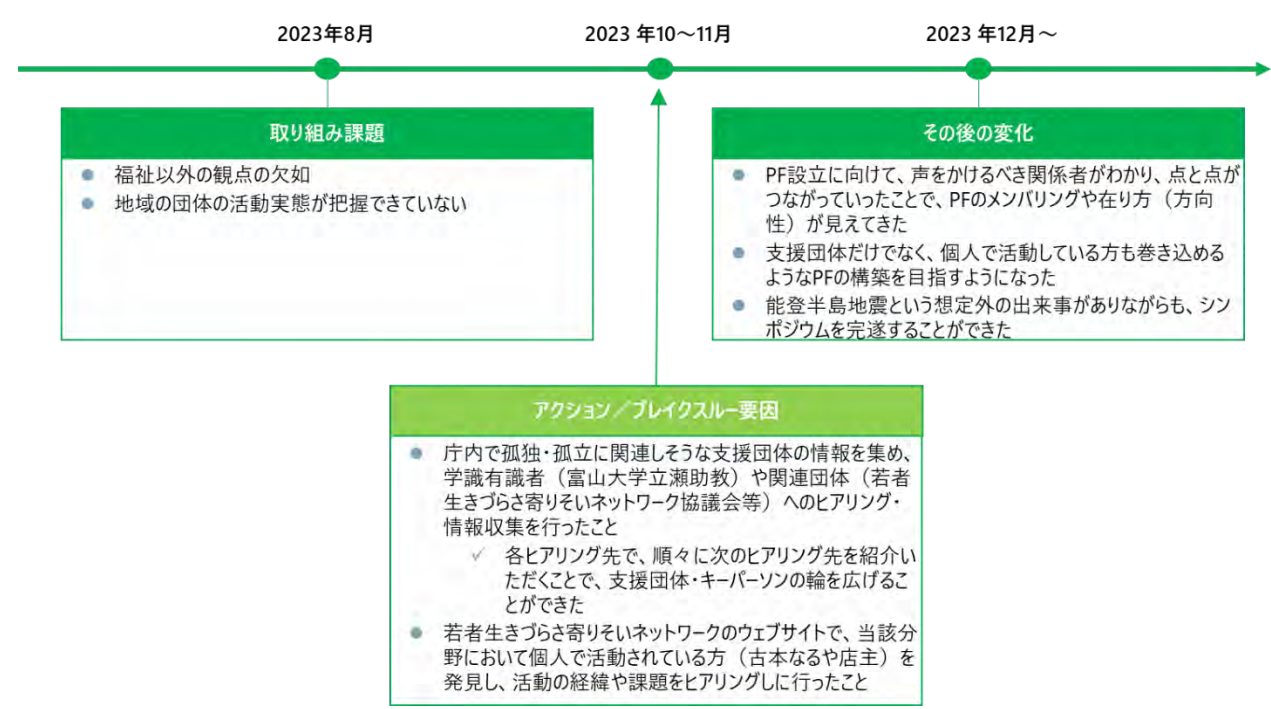
| 4. 連携PFの行程および実務上の留意点                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 【広域自治体ならではの取組み】                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| ※下の留意点では、広域自治体ならではの取組みに <b>広域</b> マークを記載 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 基礎自治体との階層化、役割の整理                         | <p>■県として PF メンバーや支援情報のハブとなる機能を持ちつつ、PF を運営する <b>広域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広域自治体が運営する PF として、以下のアクションを予定している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 県内支援団体の事業内容・窓口等の連絡先をとりまとめて県 HP に掲載</li> <li>✓ 連携 PF の運営に向けた体制構築と運営方針の策定</li> <li>✓ 体制構築に必要な支援団体への募集・声かけ</li> <li>✓ 勉強会の定期開催によるゆるいつながりの継続</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                                           |
| 基礎自治体への情報発信・機運醸成                         | <p>■市町村への説明会を経て、PF メンバーの募集を実施する <b>広域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ シンポジウム前に市町村担当者への PF 形成に係る説明会の実施、PF への参画意思のある支援団体や個人の方に対しての参画手続きを予定していたが、能登半島地震の影響により延期となった。災害対応が落ち着いた 2024 年度以降市町村への説明会及び PF メンバーの募集(オンライン上を想定)を実施し、PF を設立(参画メンバーの確定)する予定である。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 幅広い周知・機運醸成(外部団体・住民)                      | <p>■県民への普及・啓発を目的として、シンポジウムを開催した <b>広域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「富山県孤独・孤立対策シンポジウム」として、実態調査、支援団体調査の報告、大西参与からの基調講演、県内で活動されている方3名を招いたパネルディスカッションを行った。</li> <li>・ パネルディスカッションでは、能登半島地震をきっかけに「災害と孤独」を一つのテーマとして取り扱った。パネラーの一人が被災して仮住まいでの生活を経験しており、実体験を元にお話いただくことで、災害時に陥りやすい孤独・孤立への対策の重要性について考える機会を県民に提供した。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                    |
| 域内リソース(支援団体、基礎自治体)の洗い出し・集約               | <p>■孤独・孤立という社会課題に対してすでに取り組んでいる、または今後取り組む意思のある支援団体にアンケート調査を実施し、支援の課題を聞いた <b>広域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 富山県内で活動する NPO 法人、社会福祉法人、こども食堂、地域包括支援センター等約 700 団体に対してアンケートを実施し、193 団体からの回答を集めた。アンケートでは、各々の団体の活動内容を問うとともに、孤独・孤立に対するの関心やすでに行っている取組について把握できるよう、設問を設計した。</li> <li>・ その結果、アンケート回答団体の 8 割超が「孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性を感じる」と回答し、県として孤独・孤立という社会課題に対応していくことの意義を再認識することができた。</li> <li>・ 孤独・孤立対策に資する活動として、約 4 割(119 団体)が「居場所づくり」、約 3 割(85 団体)が「相談窓口の設置」、約 1 割(36 団体)が「アウトリーチ支援」を実施していることが判明し、すでに多くの団体が孤独・孤立に資する活動を行っていることが判明した。</li> </ul> |



|          |                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          |                   | <p>■市町村への関連事業の照会を行い、相談窓口の情報等を集めた <b>広域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市町村へ孤独・孤立に関連する相談窓口や事業の照会を行った。</li> <li>相談窓口の情報については、県 HP にて公開予定。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| (ア) 初期段階 |                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ①        | 主担当部署・主担当者の設定     | <p>■厚生部の連絡調整の窓口であり、部内各課や庁内各課と連絡調整を行う機会が多い厚生企画課が担当課となった</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>厚生部にはこども家庭室、高齢福祉課など対象者別に対応を実施する課も存在するが、孤独・孤立は誰にでも当てはまる社会課題として、幅広い層に対応できるよう、厚生企画課が主担当となった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ②        | 地域課題・実態の概略の把握     | <p>■課題・実態の把握にあたり、孤独・孤立対策は庁内各課で実施している取組み(自殺対策等)とどのように連携すべきか、またどのような支援団体とつながっていけばよいか、という問題に直面した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立対策とは、自殺問題、子どもや高齢者福祉に係る課題とどのように切り分けて対応すべきかについて、判断に困った。</li> <li>孤独・孤立に係る県内の支援団体とのつながりがなく、地域課題・実態の概略の把握といっても、どこから手をつけて始めればよいかわからなかった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| ③        | 連携 PF の絵姿の描写      | <p>■当該段階では絵姿を描くことが難しく、厚生企画課で核となる分野を想定し、支援団体などの連携先の情報を各課から集めた</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自殺対策の研究者である富山大学の立瀬助教にどのようにプラットフォームを構築していけばよいか相談する中で、2 層構造(①PF 自体の運営を考えるコアメンバー、②ゆるいつながりをつくり、気軽に参加できるメンバー)を検討していた。</li> <li>①のコアメンバーが誰になるか、コアメンバーをどのように集めていくかについては、PF を形成していく中で決めていくこととした。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| (イ) 準備段階 |                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| ④        | 地域課題の詳細調査         | <p>■県民の孤独・孤立に係る実態を把握するためのアンケート調査を実施した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国の実態調査を参考に、県民 2,000 人に対して、インターネットアンケート調査を実施した。その結果県内における孤独層(男性 40 代、女性 30 代が孤独を感じていることが判明)を特定することができた。</li> <li>また、孤独感が高い方は「相談しても無駄である(相談しても解決しない)」「相談すると相手の負担になる」「相談することは恥ずかしい」と感じている方が多く、相談へのスティグマが存在することが判明した。</li> </ul> <p>■孤独・孤立という社会課題に対してすでに取り組んでいる、または今後取り組む意思のある支援団体にアンケート調査を実施し、支援の課題を聞いた <b>広域</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>富山県内で活動する NPO 法人、社会福祉法人、こども食堂、地域包括支援センター等約 700 団体に対してアンケートを実施し、193 団体からの回答を集めた。アンケートでは、各々の団体の活動内容を問うとともに、孤独・孤立に対しての関心やすでに行っている取組について把握できるよう、設問を設計した。</li> <li>その結果、アンケート回答団体の 8 割超が「孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性を感じる」と回答し、県として孤独・孤立という社会課題に対応していくことの意義を再認識することができた。</li> <li>孤独・孤立対策に資する活動として、約 4 割(119 団体)が「居場所づくり」、約 3 割(85 団体)が「相談窓口の設置」、約 1 割(36 団体)が「アウトリーチ支援」を実施していることが判明し、すでに多くの団体が孤独・孤立に資する活動を行っていることが判明した。</li> </ul> |
| ⑤        | 連携 PF の運営形態・体制の検討 | <p>■PF の構成としては、2 層構造(①PF 自体の運営を考えるコアメンバー、②ゆるいつながりをつくっておきながら、気軽に参加できるメンバー)を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①のコアメンバーは、初期段階では行政が主体となり、子ども・若者支援、障害者支援、ひきこもり支援、高齢者支援などを行う、福祉関連の団体を検討している。具体的な団体は、PF を形成しながら決めていく予定だが、現時点では厚生企画課の他、若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会に</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|          |                    |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------|--------------------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          |                    |          | 参加してもらうことを想定し、進め方について議論している。 <ul style="list-style-type: none"><li>②のメンバーとしては、市町村や福祉関連の団体の他、スポーツ団体、文化芸術団体、自主防災組織等の福祉分野外の団体の巻き込みを検討している。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| ⑥        | 連携 PF の参加者の検討・巻き込み | 庁内       | <b>■関連部署へ支援団体の照会を行い、支援団体調査の配布先となる団体の情報を得た</b> <ul style="list-style-type: none"><li>厚生部内の他の課や部外に、支援団体調査の趣旨や概要を説明した上で、配布先となる団体の情報を集めた。その結果、富山県内で活動する NPO 法人、社会福祉法人、こども食堂、地域包括支援センター等約 700 団体に配布することができた。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|          |                    | 庁外       | <b>■ネットワークを構築しつつ、PF 参画候補メンバーを集めた</b> <ul style="list-style-type: none"><li>プレヒアリング調査(富山県カウンセリングセンター、富山県子ども・若者相談センター、古本なるや等)や学識有識者(富山大学立瀬助教)や関連団体(若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会)への訪問により、ネットワークの構築を図りながら、プラットフォームの趣旨に賛同してくれるメンバーを集めた。</li><li>富山大学の立瀬助教から核となっただけの団体(若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会)を紹介していただくとともに、県内の支援団体へ孤独孤立対策の現状やプラットフォームにどのようなことを期待するか等についてヒアリングを行った。</li></ul> <b>■市町村への関連事業の照会を行い、相談窓口の情報等を集めた</b> <b>【広域】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>市町村へ孤独・孤立に関連する相談窓口や事業の照会を行った。</li><li>相談窓口の情報については、県 HP にて公開予定。</li></ul> |
|          |                    | (ウ) 設立段階 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ⑦        | 域内住民・団体への情報発信      |          | <b>■県民への普及・啓発を目的として、シンポジウムを開催した</b> <b>【広域】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>「富山県孤独・孤立対策シンポジウム」として、実態調査、支援団体調査の報告、大西参与からの基調講演、県内で活動されている方3名を招いたパネルディスカッションを行った。</li><li>パネルディスカッションでは、能登半島地震をきっかけに「災害と孤独」を一つのテーマとして取り扱った。パネラーの一人が被災して仮住まいでの生活を経験しており、実体験を元にお話いただくことで、災害時に陥りやすい孤独・孤立への対策の重要性について考える機会を県民に提供した。</li></ul>                                                                                                                                                                                               |
| ⑧        | 連携 PF の運営          |          | <b>■2 層構造の中で、コアメンバーでの運営会議、それ以外のメンバーとのゆるいつながりづくりを予定している</b> <ul style="list-style-type: none"><li>PF 形成にあたり、コアメンバーで定期的に運営会議を行いつつ、それ以外のメンバーに対して定期的に勉強会・講演会・WS 等を開催することで招集をかけ、支援団体同士がゆるくつながることのできる PF の構築を目指す。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| (エ) 自走段階 |                    |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ⑨        | 今年度の積み残し課題         |          | <b>■市町村への説明会を経て、PF メンバーの募集を実施する</b> <b>【広域】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>シンポジウム前に市町村担当者への PF 形成に係る説明会の実施、PF への参画意思のある支援団体や個人の方に対しての参画手続きを予定していたが、能登半島地震の影響により延期となった。</li><li>災害対応が落ち着いた 2024 年度以降市町村への説明会及び PF メンバーの募集(オンライン上を想定)を実施し、PF を設立(参画メンバーの確定)する予定である。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                         |
| ⑩        | 来年度以降の方針           |          | <b>■県として PF メンバーや支援情報のハブとなる機能を持ちつつ、PF を運営する</b> <b>【広域】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>広域自治体が運営する PF として、以下のアクションを予定している。<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 県内支援団体の事業内容・窓口等の連絡先をとりまとめて県 HP に掲載</li><li>✓ 連携 PF の運営に向けた体制構築と運営方針の策定</li><li>✓ 体制構築に必要な支援団体への募集・声かけ</li><li>✓ 勉強会の定期開催によるゆるいつながりの継続</li></ul></li></ul>                                                                                                                                                                                          |

| ブレイクスルー要因           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アクション/<br>ブレイクスルー要因 | <p>■何からはじめてよいかわからない状態だからこそ、自分の足で動いて人に聞くことで、点と点をつなぎながら事業の在り方を模索した</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本事業に取り掛かる段階では、孤独・孤立という新しい社会課題に関して担当課内では十分な知識がなく、そのため、PFの構想を描く段階では福祉分野から脱却できず、内閣官房が期待する福祉分野以外の団体の巻き込みに頭を悩ませていた。加えて、地域における関連団体とのつながりがなく、それらの団体の活動内容や活動範囲等を把握できていないという状態であった。</li> <li>そこでまず、庁内で孤独・孤立に関連しそうな支援団体の情報を集め、学識有識者（富山大学立瀬助教）や関連団体（若者生きづらさ寄りそいネットワーク協議会等）へのヒアリング・情報収集を行った。その後、各ヒアリング先で、順々に次のヒアリング先を紹介いただくことで、PF 設立に向けて、声をかけるべき関係者がわかり、点と点がつながっていき、PF のメンバリングや在り方（方向性）が見えてきた</li> <li>また、若者生きづらさ寄りそいネットワークのウェブサイトで、当該分野において個人で活動されている方（古本なるや店主）を発見し、活動の経緯や課題をヒアリングしに行ったことで、支援団体だけでなく、個人で活動している方も巻き込めるような PF の構築を目指すようになった。</li> </ul> |
|                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |





## コラム ～「話せる古本屋」から見た孤独・孤立対策の重要性～

### 古本なるや(富山県高岡市)

- ・ 店主の堀田氏は、「孤立をなくし、人とつながれる場所を作りたい」という想いのもと、2018年、富山県高岡市伏木で古本屋なるやを開業した。店内は一見ごく普通の古本屋ではあるが、本の売買だけでなく、人々の話を聞き、必要であれば相談に乗ってくれる本屋であり、多くの地域住民がふらっと立ち寄っては、ここで一息ついている。
- ・ 堀田氏は、交流分析士の資格を持ち、NPO 法人で相談員を務めた経験も有する。生きづらさを抱える様々な人の相談を受けたり、月に一度自殺について考える会を開いたり、なるやは人が集う「話せる古本屋」として親しまれている。古本屋にきた、DV や生活困窮、不登校などの問題を抱えている人たちの話に耳を傾け、そこから支援に繋がったケースも多数存在する。

#### 📍誰もがふらっと訪れることのできる「古本屋」であることを重視した

- ・ 伏木のような小規模な街に限らず、地方では顔が見える関係が築きやすいからこそ、「〇〇さんの長男が引きこもりらしい」「XXさんが精神科に通っているらしい」といううわさが広まりやすい。堀田氏は「NPO 法人」等の福祉の看板を掲げてしまうと、スティグマを抱えている人が相談にきてくれないのではないかと、個人事業主として古本屋を営業することにこだわっている。
- ・ 周囲に支援先や相談窓口が存在するはずなのに、当事者が相談の一步を踏み出せないというケースも多い。堀田氏は、日常の延長に話すことのできる環境をつくることができれば、という想いで人々になじみやすい「古本屋」という形を選択した。

#### 📍地域における居場所を提供する

- ・ 古本なるやには、店内に大きな机とそれを囲むように複数の椅子が設置してある。本事業のヒアリングのためになるやを訪れた際にも、古本屋であるはずなのに、本には見向きもせず、椅子に座って堀田氏としゃべるタイミングを待っているお客さんが何人も訪れていた。大人にとっての行きつけの飲み屋、子供たちにとっての駄菓子屋等、人が気軽に集えるような場所が減っている現代において、古本なるやが地域住民の居場所となっているのではないかと。



2024年に発生した能登半島地震により、古本なるやの店舗は半壊した。堀田氏は仮住まいに移りながら、新しい店舗を探し、2024年4月に伏木内の新たな場所で古本なるやを再スタートさせる予定である。

| 5.自治体等との打合せ記録一覧 |                         |                                                     |                       |          |
|-----------------|-------------------------|-----------------------------------------------------|-----------------------|----------|
| No.             | 日時                      | 打合せ相手団体                                             | 出席者                   |          |
|                 |                         |                                                     | 打合せ相手                 | NRI      |
| 1               | 8/3(木)<br>16:00-17:00   | 富山県 厚生企画課                                           | 小川様、早川様、海老様           | 生駒、谷本、坂田 |
| 2               | 8/22(火)<br>13:00-14:00  | 富山県 厚生企画課                                           | 小川様、早川様、海老様           | 生駒、坂田    |
| 3               | 8/30(水)<br>13:30-14:30  | 富山県 厚生企画課<br>サバイリサーチセンター                            | 早川様、釜谷様<br>砂川様、神山様    | 生駒、坂田    |
| 4               | 9/13(火)<br>14:30-15:30  | 富山県 厚生企画課<br>サバイリサーチセンター                            | 早川様、釜谷様<br>砂川様、横田様    | 生駒、坂田    |
| 5               | 9/25(月)<br>11:00-12:30  | 富山県 厚生企画課<br>サバイリサーチセンター                            | 早川様、釜谷様<br>砂川様、横田様    | 生駒、坂田    |
| 6               | 10/25(水)<br>14:15-16:30 | 富山県 厚生企画課<br>NPO 法人カウンセリングセンタ<br>ー                  | 早川様、釜谷様<br>櫻井様        | 生駒、坂田    |
| 7               | 11/2(木)<br>12:30-13:30  | 富山県 厚生企画課                                           | 早川様                   | 坂田       |
| 8               | 11/22(水)<br>13:00-14:00 | 富山県 厚生企画課<br>サバイリサーチセンター                            | 早川様<br>砂川様、横田様        | 坂田       |
| 9               | 11/29(水)<br>13:00-17:30 | 富山県 厚生企画課<br>古本なるや<br>NPO 法人はあとびあ                   | 早川様、飯田様<br>堀田様<br>高和様 | 坂田       |
| 10              | 12/20(水)<br>13:00-14:00 | 富山県 厚生企画課                                           | 早川様                   | 坂田       |
| 11              | 12/21(木)<br>16:00-17:00 | 富山県 厚生企画課<br>サバイリサーチセンター                            | 早川様<br>砂川様、横田様        | 生駒、坂田    |
| 12              | 1/23(火)<br>13:00-14:00  | 富山県 厚生企画課<br>ジェック経営コンサルタント                          | 早川様<br>五十嵐様、上田様       | 坂田       |
| 13              | 1/23(火)<br>15:00-16:00  | 富山県 厚生企画課<br>PCO                                    | 早川様<br>飯野様、千田様        | 坂田<br>坂田 |
| 14              | 2/7(水)<br>18:00-19:00   | 富山県 厚生企画課<br>PCO                                    | 早川様<br>飯野様、千田様        | 坂田<br>坂田 |
| 15              | 2/21(水)<br>17:30-18:30  | 富山県 厚生企画課<br>富山大学<br>一般社団法人若者生きづらさ寄<br>りそいネットワーク協議会 | 早川様<br>立瀬様<br>酒井様     | 生駒、坂田    |
| 16              | 2/22(木)<br>13:00-14:00  | 富山県 厚生企画課                                           | 早川様                   | 坂田       |

## 自治体による従前からの取組み

### ■ 自殺対策ポータルサイト「タッチハート」の設置

#### (取組概要)

自殺対策に係る相談機関や民間支援団体の紹介、うつ病などに関する情報、県からののお知らせなど、自殺対策に関する様々な情報を集約したポータルサイト「タッチハート～つながろう、心と心。～」を運営している。ポータルサイトでは、支援団体が一覧化されており、ガイドブックでは、課題別(夫婦関係、多重債務、生活保護、ひきこもり、不登校・いじめ等)に必要な支援窓口の情報が整理されている。

図表 「つながろう、心と心。」ガイドブック



### ■ ヤングケアラー実態調査

#### (取組概要)

ヤングケアラーの認知度を高め、理解を深めるとともに、県のヤングケアラーの傾向を把握し、今後の施策に反映することを目的として、実態調査を行った。具体的には、令和4年9月～10月にかけて、中学2年生、高校2年生を対象に、アンケート調査を実施した。その結果、県内の中学2年生の約18人に1人(5.5%)、高校2年生の約24人に1人(4.2%)がヤングケアラーであり、この割合は全国調査の結果とほぼ同等ということが判明した。

※「ヤングケアラー」とは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子どものことを指す。

図表 「令和4年度 ヤングケアラーに関する実態調査」報告書(一部抜粋)

#### IV. ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは例えばこのような状況のことを指します。



ヤングケアラーとは、『本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子どもの権利が守られていないと思われる子ども』のことをいいます。

問20 あなた自身「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。(あてはまるものを選択してください)

1. あてはまる 2. あてはまらない 3. まじらない

問21 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。(あてはまるものを選択してください)

1. 聞いたことがあり、内容も知っている 2. 聞いたことはあるが、よく知らない 3. 聞いたことはない 4. その他

問22 問21で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(複数選択可)

1. テレビや新聞、ラジオ 2. 雑誌やWeb 3. SNSやインターネット  
4. 広報やチラシ、風物帖 5. イベントや交流会など 6. 学校  
7. 友人・知人から聞いた 8. その他

自由記述(ヤングケアラーへの支援を促すために必要だと思うことや、要望等なんでも)

#### 3. 家族や家族のことについて

##### (1) 世話をしている家族の有無

問11 家族の中にあなたがお世話をしている人はいまいますかここで「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話をすることです。。(N/A)

世話をしている家族の有無については、県中学生では5.5%(全国6.7%)、県高校生では4.2%(全国4.1%)の回答者が「いる」と答えており、全国調査と同様の結果となっている。

図 世話をしている家族の有無(富山県)

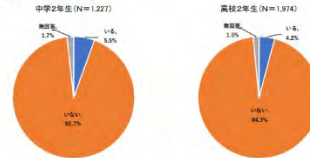


図 世話をしている家族の有無(全国)

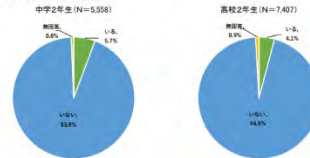


表 世話をしている家族の有無(定時制高校2年生)

|                     | いる   | いない   | 無回答  |
|---------------------|------|-------|------|
| 富山県・定時制高校2年生 (N=29) | 3.4% | 96.6% | 0.0% |
| 全国・定時制高校2年生 (N=366) | 8.5% | 91.5% | 0.0% |

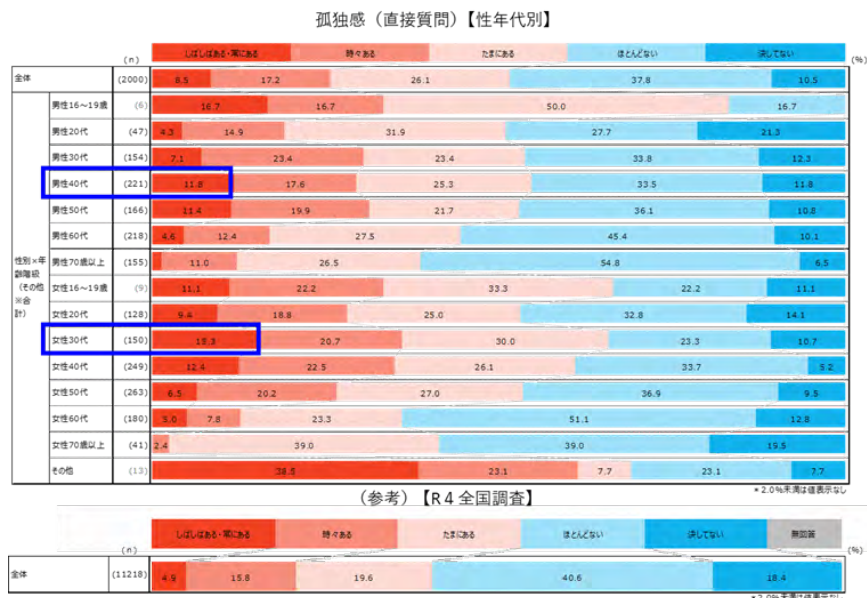
| 試行的事業                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 孤独・孤立に関する調査                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                     |
| 概要                                                                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>調査対象者: 富山県内に居住する 16 歳以上の個人</li> <li>調査方法: WEB モニター調査</li> <li>調査期間: 令和5年 10 月 12 日(木)～令和5年 10 月 22 日(日)</li> <li>回収数: 2,000 件</li> </ul>                     |
| 結果                                                                                                                                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>県内における孤独層の特定(男性 40 代、女性 30 代が孤独を感じていることが判明)</li> <li>孤独感が高い方は「相談しても無駄である(相談しても解決しない)」「相談すると相手の負担になる」「相談することは恥ずかしい」と感じている方が多い</li> </ul>                      |
| 工夫点                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>「支援先を選んだ理由」「支援を受けた結果どう感じたか」等の県独自の設問を追加し、今後の支援の在り方の参考になる回答を集められるよう工夫した</li> <li>シンポジウムにて県民に調査結果を発表することで、孤独・孤立という課題の普及啓発と孤独を感じた際に相談や人に話すことの機運醸成を図った</li> </ul> |
| ねらい                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>4 地域毎・年代毎の特徴を把握</li> <li>シンポジウムで当該調査結果を報告することで、住民への普及啓発に努める</li> </ul>                                                                                       |
| ▼調査事項                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                     |
| (1)孤独に関する事項                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独感(UCLA孤独感尺度・直接質問)、継続期間、これまでに経験・孤独感に強く影響を与えたライフイベント(家族との離別・死別、人間関係の重大なトラブル等)</li> </ul>                                                           |                                                                                                                                                                                                     |
| (2)孤立に関する事項                                                                                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>外出頻度、外出目的、行動範囲、社会的交流(家族・友人とのコミュニケーション手段や頻度)、活動への参加状況</li> </ul>                                                                                    |                                                                                                                                                                                                     |
| (3)その他関連事項                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションツールの利用状況、困った時に頼れる人、不安や悩みの相談相手の有無、不安や悩みを相談する際の感情、日常生活における悩みの状況、まわりの人への手助け、心身の健康状態、生活満足度、コロナ禍におけるコミュニケーションの変化・生活の変化、孤独・孤立解消のきっかけ</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                     |
| (4)属性事項                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>年齢、性別、市町村、婚姻状況、世帯状況、同居人の有無・数、学歴、就業状態、居住形態、世帯の年間収入、経済的な暮らし向き</li> </ul>                                                                             |                                                                                                                                                                                                     |



## ▼主な調査結果

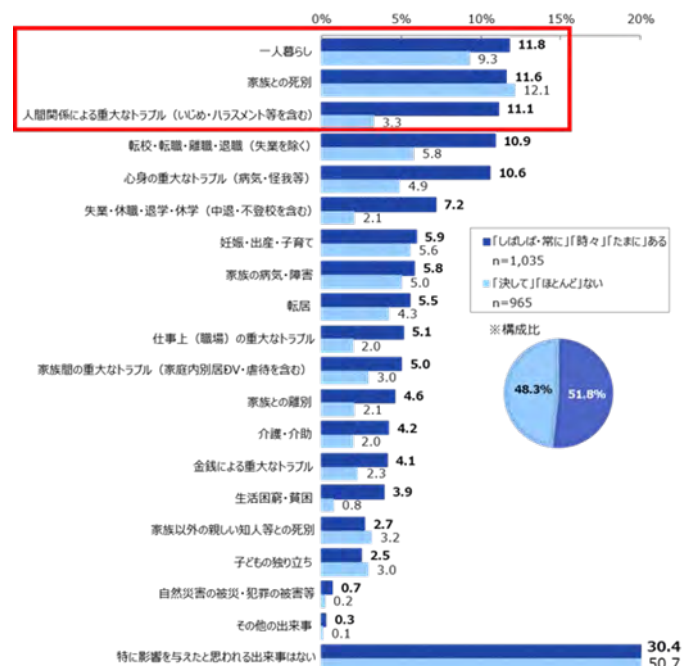
- 全国調査(令和4年実施)と比較した結果、孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した人の割合は、県の方がやや上回る。
- 男女・年代別に孤独の感じ方を見てみると、男性の40歳代(11.8%)、女性の30歳代(15.3%)が最も孤独を感じる割合が高い。
- 男性では40・50歳代、女性では30・40歳代をピークに年代が上がるにつれて孤独感が低くなる傾向がうかがえる。

図表 年代別孤独・孤立の実態



- 孤独の原因を探ってみると、孤独感が「しばしば・常に」「時々」「たまに」と回答した人では、「一人暮らし」11.8%、「家族との死別」11.6%、「人間関係の重大なトラブル(いじめ・ハラスメント等を含む)」11.1%などが高い。

図表 孤独に影響を与えたと思う出来事 ※複数回答

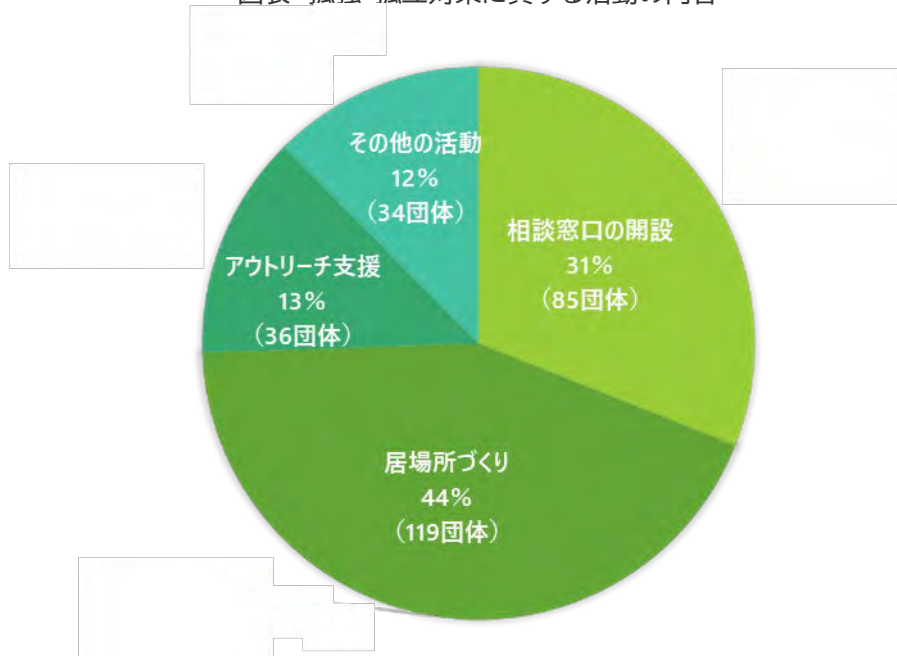


| ② NPO 等における孤独・孤立にかかる取組み調査                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概要                                                                                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>調査対象者:富山県内で活動する NPO 法人、社会福祉法人、こども食堂、地域包括支援センター等約 700 団体(回収 193 団体)</li> <li>調査方法:郵送による配布、WEB 併用回収</li> <li>調査期間:2023 年 11 月～2023 年 12 月</li> </ul>                      |
| 結果                                                                                                                                                                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>700 団体中 193 団体から回収</li> <li>県の HP で掲載する団体情報を回収(希望者のみ)</li> </ul>                                                                                                        |
| 工夫点                                                                                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立に係る活動の説明として、「人とのつながり」という言葉を用いることで、文化芸術・スポーツ・まちづくり等の幅広い種別の団体の活動内容・意向を把握できるよう努めた</li> <li>庁内各課から情報を集める、既知の支援団体に他の団体を紹介してもらうなどして、県内の多種多様な団体に調査を実施できるよう工夫した</li> </ul> |
| ねらい                                                                                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>市内の孤独・孤立対策(人とのつながりを含む活動)に関連する取組を実施する団体の把握、官民 PF に参画意向のある団体等の発掘</li> </ul>                                                                                               |
| ▼調査事項                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立対策(人とのつながり)に資する活動内容、活動頻度等</li> <li>孤独・孤立(人とのつながり)に関連のあると思われる主な支援事例、成果及び課題</li> <li>孤独・孤立(人とのつながり)にかかる問題に取り組みの必要性、取り組む上での課題等</li> <li>団体の情報(県 HP 掲載予定)</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                |

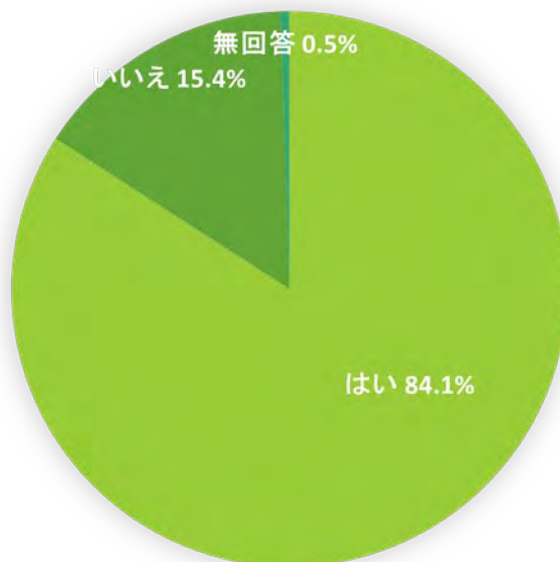
## ▼主な調査結果

- ・ 孤独・孤立対策に資する活動として約 4 割(119 団体)が「居場所づくり」、約 3 割(85 団体)が「相談窓口の設置」、約 1 割(36 団体)がアウトリーチ支援を実施している。
- ・ 8 割超が「孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性を感じる」と回答。

図表 孤独・孤立対策に資する活動の内容



図表 孤独・孤立にかかる問題に取り組む必要性



| ③ 県民向け普及啓発イベント |                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概要             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名称:富山県孤独・孤立対策シンポジウム</li> <li>・ 日程:2024 年 2 月 21 日(水)開会 14:00、閉会 17:00</li> <li>・ 会場:富山国際会議場 201・202 号室(オンライン配信あり)</li> </ul>                                                   |
| 結果             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会場参加者数 57 人(団体 36、一般 21)、オンライン申込者 54 人(団体 35、一般 19)でアンケート回答者の約 9 割が「満足」と回答</li> <li>・ テレビ局2社の取材があり、支援団体間のつながりの重要性や日常的な人とのつながりの重要性についてニュースで放送</li> </ul>                        |
| 工夫点            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パネルディスカッションのパネラーについて、バランスを考慮し、学識有識者、地域で活動する一般社団法人の代表、個人で活動する方の 3 者を選出した</li> <li>・ 能登半島地震を受けて、「災害と孤独」を一つのテーマとして採り上げることで、孤独に陥りやすい災害時における孤独・孤立対策の重要性について考える機会を県民に提供した</li> </ul> |
| ねらい            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 富山県として孤独・孤立を重要かつ誰にでも起こりえる身近な社会課題と認識していることを普及啓発する</li> </ul>                                                                                                                    |

図表 実施概要

|                 |                                                                                                                                                                    |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 開催日             | 2024 年 2 月 21 日(水)                                                                                                                                                 |
| 開催場所            | 富山国際会議場 201・202 号室(オンライン配信あり)                                                                                                                                      |
| 14:00～<br>14:10 | 開会挨拶・富山県の取り組みについて(富山県厚生部長)                                                                                                                                         |
| 14:10～<br>15:00 | <b>基調講演</b><br>「孤独・孤立問題の現状と対策の方向性」<br>大西 連 氏(内閣官房孤独・孤立対策担当室 政策参与)                                                                                                  |
| 15:00～<br>15:10 | 休憩                                                                                                                                                                 |
| 15:10～<br>16:40 | <b>パネルディスカッション</b><br>「声をあげやすい社会、声をかけやすい社会の実現に向けて」<br>コーディネーター:大西 連 氏<br>パネリスト:立瀬 剛志 氏(富山大学学術研究部疫学・健康政策学講座 助教)<br>堀田 晶 氏(古本なるや店主)<br>水野 カオル 氏(一般社団法人Ponte とやま代表理事) |
| 16:40～<br>16:55 | 質疑タイム                                                                                                                                                              |
| 17:00           | 閉会                                                                                                                                                                 |

図表 チラシ(左:表、右:裏)



※コンテンツの配分時間がチラシ印刷後に変更となったため、チラシに記載のあるプログラムと当日のプログラムが異なる

パネルディスカッションでは、学識有識者、地域で活動する一般社団法人の代表、個人で活動する方の3者に登壇いただき、それぞれの活動内容を紹介した上で、「つながりをつくることの大切さ」「災害時において孤独・孤立に陥らないようにするために」の2つのテーマについてディスカッションを行った。能登半島地震をきっかけに「災害と孤独」を取り扱ったことによって、孤独に陥りやすい災害時における孤独・孤立対策の重要性について考える機会を県民に提供した。

図表 パネルディスカッションの様子



終了後、「支援団体・自治体職員」「一般の方」それぞれに対して満足度やPFへの関心等を問うアンケートを行った。「支援団体・自治体職員」「一般の方」共に、アンケート回答者の約9割が「満足」と回答した。

図表 アンケート調査票(左:「支援団体・自治体職員向け」、右:「一般の方向け」)



支援団体・自治体職員の方

「富山県孤独・孤立対策シンポジウム」アンケート

富山県孤独・孤立対策シンポジウムへのご参加ありがとうございました。  
今後設立する富山県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム（以下、プラットフォーム）の取り組みの参考とさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。  
下記に記入または、右記の二次元コードからご回答頂けます。



1. 本日の内容は、貴団体等における孤独・孤立対策の取り組みを推進していくうえで役に立ったでしょうか？

- ① たいへん役に立った ② まあまあ役に立った ③ なんともいえない  
④ あまり役に立たなかった ⑤ まったく役に立たなかった ⑥ その他

2. 今日の話を聞いて、参考になった点があれば教えてください。

3. 今日の話を聞く前と聞いた後では、どのように孤独・孤立対策に係る意識が変わりましたか。

4. 今後県で設立予定のプラットフォームに参画されたいですか。

（※プラットフォームでは、孤独・孤立対策に関心が高い支援団体等との連携を進めるため、勉強会等を実施する予定です。）

- ① 参画したい ② なんともいえない ③ 参画したくない

5. 設問4の理由を教えてください。

6. 今日の話でわかりにくかったところやもっと聞いてみたい点がありますか。

7. その他、ご自由に感想等をご記入ください。

一般の方

「富山県孤独・孤立対策シンポジウム」アンケート

富山県孤独・孤立対策シンポジウムへのご参加ありがとうございました。  
今後の富山県の孤独・孤立対策の取り組みの参考とさせていただきますので、下記に記入または、右記の二次元コードからご回答をお願いいたします。



1. 今日のシンポジウムは満足でしたか。

- ① たいへん満足 ② 満足 ③ どちらともいえない  
④ やや不満 ⑤ 不満

2. 設問1の理由を教えてください。

3. 今日の話を聞いて、参考になった点があれば教えてください。

4. 今日の話を聞く前と聞いた後では、どのように孤独・孤立対策に係る意識が変わりましたか。

5. 今日の話でわかりにくかったところやもっと聞いてみたい点がありますか。

6. その他、ご自由に感想等をご記入ください。

図表 アンケート結果（「支援団体・自治体職員向け」、一部抜粋）

1. 本日の内容は、貴団体等における孤独・孤立対策の取り組みを推進していくうえで役に立ったでしょうか？

詳細

インサイト

|                |    |
|----------------|----|
| ① たいへん役に立った    | 14 |
| ② まあまあ役に立った    | 9  |
| ③ なんともいえない     | 0  |
| ④ あまり役に立たなかった  | 0  |
| ⑤ まったく役に立たなかった | 0  |
| ⑥ その他          | 0  |



図表 アンケート結果（「一般の方向け」、一部抜粋）

1. 今日のシンポジウムは満足でしたか。またその理由を教えてください。

詳細

|             |    |
|-------------|----|
| ① たいへん満足    | 8  |
| ② 満足        | 14 |
| ③ どちらともいえない | 2  |
| ④ やや不満      | 0  |
| ⑤ 不満        | 1  |



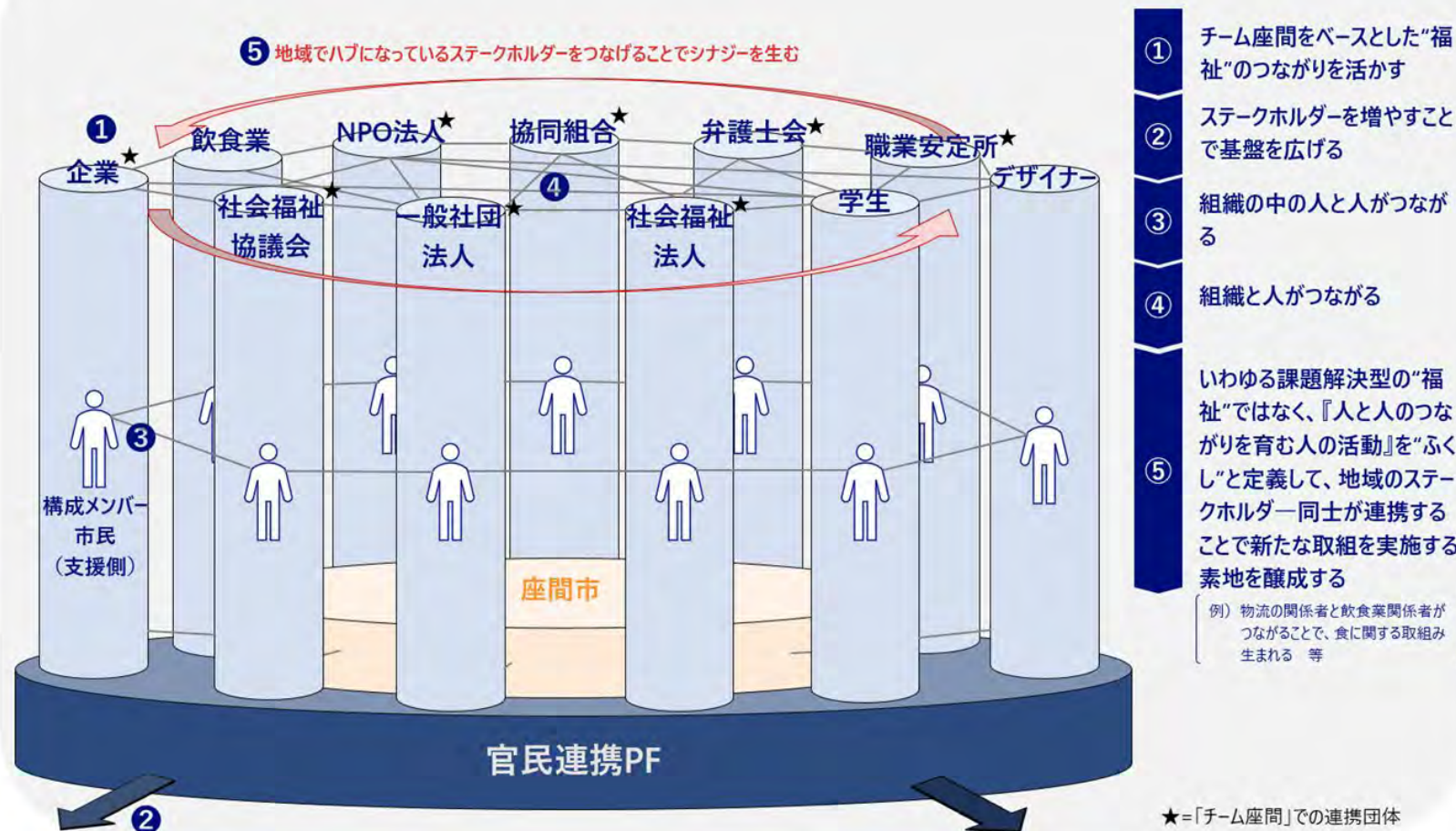
## 2-3. 座間市

|     |   |     |
|-----|---|-----|
| No. | 1 | 座間市 |
|-----|---|-----|

| 1. 取組の全体像                                                                             |                                         |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 自治体の概要                                                                             |                                         |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                   |
| ①                                                                                     | 自治体名                                    | 座間市(神奈川県)                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                | ② 担当部局名 福祉部地域福祉課                  |
| ③                                                                                     | 人口                                      | 132,325(人) <令和 2 年 10 月/国勢調査>                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                |                                   |
| ④                                                                                     | 自治体内連携                                  | 庁内連携(メイン)                                                                                                                                                                                         | 連携部局                                                                                                                           | 福祉部地域福祉課                          |
|                                                                                       |                                         |                                                                                                                                                                                                   | 連携内容                                                                                                                           | 包括的支援体制構築ワーキンググループ(現状)            |
|                                                                                       |                                         | 庁内連携(メンバー)                                                                                                                                                                                        | 連携部局                                                                                                                           | 市民広聴課、介護保険課、債権管理課など 10 部 19 課(現状) |
|                                                                                       |                                         |                                                                                                                                                                                                   | 連携内容                                                                                                                           | 相談業務を中心に相談支援体制を検討し、全庁共有を行う。       |
| 2. 形成をめざす地方版連携 PF の姿                                                                  |                                         |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                   |
| ①                                                                                     | 従前の取り組み<br>※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等  | ・ 座間にはこれまでの“福祉”で取り組んできた「チーム座間」などのネットワークがある。生活困窮を柱とする包括的な相談支援体制にいち早く着手し、福祉領域でのステークホルダーを独自に発掘、「NPO 法人ワンエイド」、「はたらっくざま」(生活クラブ生活協同組合等の共同企業体)、座間市社会福祉協議会などで構成される「支援調整会議」を月1回実施し、支援団体との連携、検討を継続して実施している。 |                                                                                                                                |                                   |
| ②                                                                                     | 実現したい状態<br>※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境      | 最終的なゴール                                                                                                                                                                                           | ・ 孤独・孤立官民連携 PF ではこれまでの“福祉”の枠を超えた地域のステークホルダーとのプラットフォームによりこれまでの支援で抜け落ちていた層への支援の可能性を広げ、一見福祉とは関係のないと思われる団体や人にも気軽に参画・活躍できる枠組みを整備する。 |                                   |
|                                                                                       |                                         | 今年度のゴール                                                                                                                                                                                           | ・ “福祉”の枠を超えて、行政をはじめ様々な支援団体に対して意識の变革を促し、より広い視点での相談支援に資するよう勉強会を通じて意識啓発を行う。                                                       |                                   |
| 3. 地方版連携 PF における連携体制                                                                  |                                         |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                   |
| ①                                                                                     | 地方版連携 PF<br>※各種団体が「水平的」「包摂的」に集う最も大きな枠組み | 参画メンバー                                                                                                                                                                                            | ・ 地域住民を含めた直接的な支援者に留まらず「ふくし」的な取組を行っている団体(人)で構成                                                                                  |                                   |
|                                                                                       |                                         | 選出・打診時の工夫                                                                                                                                                                                         | ・ 従来の支援体制の外の団体を引き入れるため「福祉支援」を前面に出さずに参加できるよう努める。                                                                                |                                   |
| ②                                                                                     | 地域協議会<br>※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成           | 参画メンバー                                                                                                                                                                                            | ・ 委託事業者を含めこれまで市と連携し、伴走している支援団体をメンバーの軸とする。                                                                                      |                                   |
|                                                                                       |                                         | 選出・打診時の工夫                                                                                                                                                                                         | ・ 自由な意見が言えるよう日頃から顔の見える関係性を構築する。                                                                                                |                                   |
| 4. PF 連携による価値や工夫_考え方                                                                  |                                         |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                   |
| ・ 人と人のつながりを育む人の活動(例えばスナックやバー、書店、喫茶店等も)を広く“ふくし”と再定義、ソーシャルワークという言葉も脱構築して、地域の“ふくし”探しをする。 |                                         |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                   |
| ・ 広義のふくしについては、時間的制約もあり、取り組み方や、考え方を啓発するに主軸を置き現状のネットワークの殻を破る足掛かりとする。                    |                                         |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                   |
| ・ 既存の「チーム座間」については継続して取組を実施していくが新たな PF を課題の解消の一助とすることで更なる支援体制の拡充を目指す。                  |                                         |                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                |                                   |

## 2. 連携 PF イメージ

### 5. 連携プラットフォームのイメージ図



(連携プラットフォームの内容説明)

座間市における連携プラットフォーム(連携 PF)は、従前来の枠組みである「チーム座間」での福祉関係の団体との連携をベースとしつつ、福祉に留まらない関係団体も含めステークホルダーが参画する枠組みとなっている。ステークホルダーを増やし基盤を拡大し、まずは組織間の人と人がつながり、組織と組織がつながる流れを想定している。課題解決型の枠組ではなく地域のステークホルダー同士が連携することで新たな取組を実施する素地を醸成することを目指す。



| 3. 試行的事業一覧          |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                |                              |
|---------------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要 |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                |                              |
| 試行的事業のポイント・工夫       |               | ・ PF 形成に向けて、これまでいわゆる“福祉”の文脈では関わりの少なかった市民や参画団体の巻き込みを図る。同時に、これまでの連携の基盤も活かしつつ団体の幅を広げる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                |                              |
|                     | 事業名称          | 事業内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 目的/期待効果・KPI                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 実施時期                                                                           | 発注先(予算)                      |
| ①                   | アートによる社会参加の創出 | <ul style="list-style-type: none"><li>アートの力を活用して、生きづらさを抱え孤立している方の個性を評価し、社会参加へつなげる環境整備を実施。</li></ul> <p>(1)ワークショップ:アート作品の制作などを通じて、孤独・孤立を抱えている方へ「生きづらさ」に対する視点をポジティブに変えられるような体験をしてもらう。</p> <p>(2)大型展示:インパクトのあるインスタレーションを通じて、市民へ身近に生きづらさを抱えた方が存在することに気付いてもらう。</p> <p>(3)複数展示:アート作品を通じて、孤独・孤立を抱えている方および市民へ生きづらさの中にある魅力に気付いてもらう。</p> <p>(4)トークイベント:アート作品に込めた、孤独・孤立に関する考え方・視点などについて、作家と行政担当者による座談会を実施。</p> | <p>✓ 目的</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生きづらさを抱えて孤独・孤立を感じている方(ひきこもりや社会になじめない方)へ、就労以外の自己実現の場を創出する。</li><li>市民へ、生きづらさを抱え、孤独・孤立を抱えている方がいることを知ってもらう。</li><li>アートに携わる方へ支援のネットワークに入ってもらおう。</li></ul> <p>✓ 期待効果</p> <ul style="list-style-type: none"><li>孤独・孤立を感じている方が自分の生きづらさを肯定的に捉えられるようになる。</li><li>孤独・孤立を感じている方に対して寛容な環境をつくる。</li><li>就労による自己実現だけでなく、生きづらさの中にある魅力を発見・評価できる体制を整備する。</li></ul> | <p>✓ワークショップ：<br/>1/30</p> <p>✓展 示：<br/>2/20-2/26</p> <p>✓トークイベント：<br/>2/24</p> | 現代美術家/<br>鈴木康広<br>(約 273 万円) |
|                     |               | 成果検証結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <p>➤ イベントの参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"><li>1F ロビー:1460 人程度</li><li>7階展望フロア:1070 人程度</li><li>トークイベント:120 人程度</li></ul> <p>➤ 参加者の満足度:およそ9割が「よい」または「とてもよい」と回答</p>                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                |                              |

|   |           |                                                                                                                                                       |                                                                                      |                    |                         |
|---|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|-------------------------|
| ② | 啓発のための学習会 | <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで市で繋がりのなかったステークホルダーの巻き込み、これまでつながりがあった団体と新たな団体の関係構築・連携強化を狙いとして、支援する側の団体・組織をターゲットとしたイベント形式の学習会を実施。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>PF 参画団体等に対して孤独・孤立に関する問題認識・理解向上を図る。</li> </ul> | ✓2/4               | (株)グランドレベル<br>(約 91 万円) |
|   |           |                                                                                                                                                       | 成果検証結果                                                                               | ➤ 参加団体間での具体的な連携の創出 |                         |

## 7. 次年度以降に向けた事業等の案

※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙

- ・ 孤独・孤立を抱えている方が、就労以外の方法で自己実現をするための支援体制の整備
- ・ PF での勉強会の継続的な実施
- ・ アートでの社会参加の創出

## 8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響

- ・ 以下の媒体にて「アート展示」、「ワークショップ」に関する報道がなされた。
  - ・ 美術手帖、artscape、Tokyo Art Beat(ウェブ)
  - ・ 毎日・神奈川新聞、タウンニュース
- ・ アート展示やワークショップでアンケートを実施し、参加者から FB 受領

## 4. 連携PFの行程および実務上の留意点

### (ア) 初期段階

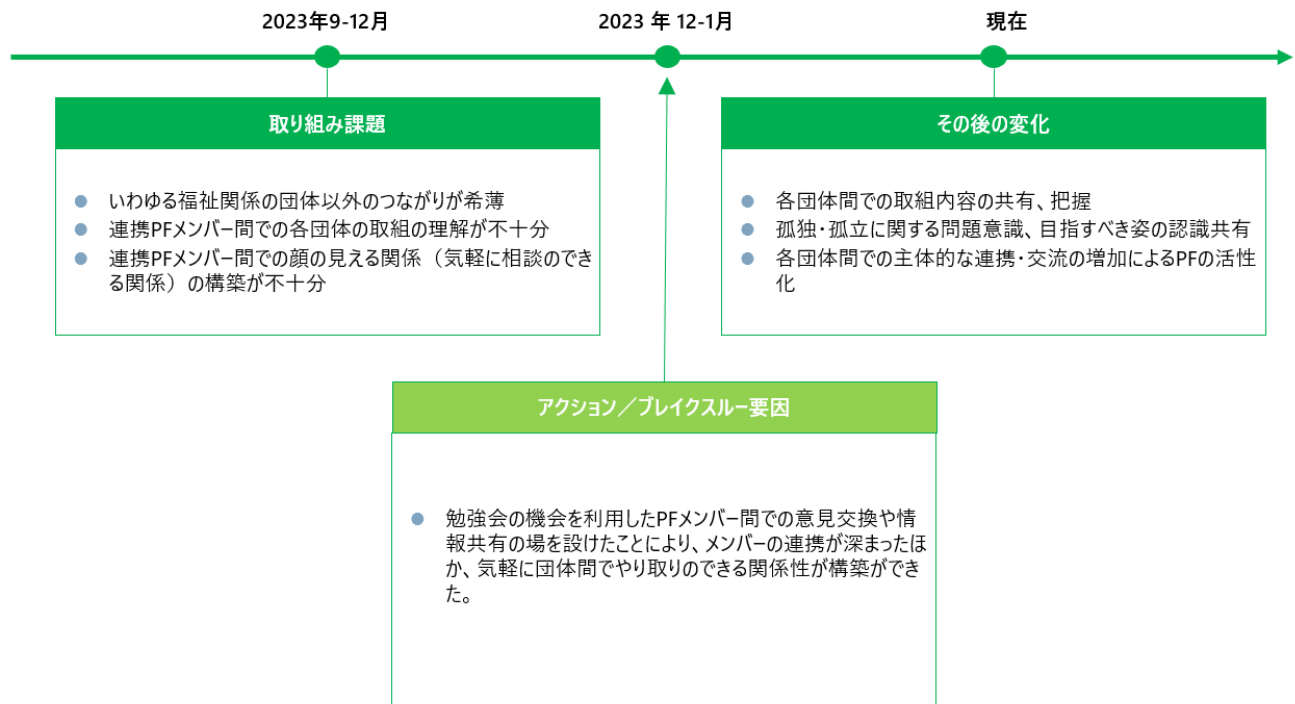
|   |               |                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① | 主担当部署・主担当者の設定 | <p>■<u>従前からの自治体独自の先進的な取組・連携枠組みをフル活用した、連携体制の構築</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 座間市で先進的に実施してきている支援調整会議や「チーム座間」の取組など、すでに広く連携しているネットワークを活用すべく、素地のある部署として福祉部地域福祉課を選定した。</li> <li>・ また、当該部署では重層的支援体制整備事業も担当しており、今後の孤独・孤立対策との連携による相乗効果が見込まれた。</li> </ul>           |
| ② | 地域課題・実態の概略の把握 | <p>■<u>日頃の相談業務の中において様々な地域・住民ニーズを把握し、既存の枠組みで対応できない事柄を把握</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ これまで実施してきている『断らない相談支援』の中で、孤独・孤立の相談も含め、地域・住民の課題を広く把握していた。</li> <li>➤ 相談の中で行政のリソース、既存制度、既存の枠組みで対応できないことを把握し、それらを解決するための枠組みの検討に活用。</li> </ul>                           |
| ③ | 連携 PF の絵姿の描写  | <p>■<u>これまでの福祉での連携を活かしつつ、福祉以外の分野の関係者との連携の枠組みを広げる</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ これまでの“福祉”の枠を超えた地域のステークホルダーとのプラットフォームによりこれまでの支援で抜け落ちていた層への支援の可能性を広げる。</li> <li>➤ 同時に、支援団体側については、直接的には福祉とは関係のないと思われる団体や人でも気軽に参画・活躍できる枠組みを整備することで、さらなる連携枠組みの拡大を図る。</li> </ul> |



| (イ) 準備段階 |                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ④        | 地域課題の詳細調査          | <div>■問題認識・理解向上を目的とした PF 構成員による勉強会や意見交換を実施</div> <div><div>➢ 既存の連携枠組みはあるものの団体間での問題意識の共有や自発的な意見交換などの実施までには至っていない現状があったことから、まずは PF 構成員による勉強会や意見交換の場を活用して、孤独・孤立に係る地域の課題に関して認識共有の場を設けた。</div></div>                                                                                                                           |
| ⑤        | 連携 PF の運営形態・体制の検討  | <div>■行政と支援団体との対等な関係での「水平的連携」を目指す</div> <div><div>➢ 「水平的連携」を目指し、あくまで行政と支援団体とが対等な関係で会話ができるように運営を検討した。</div><div>➢ 従前の取組も含め、座間市では地域・住民からの相談ごとをきっかけに支援に当たって行政だけでは対応できない場合に、必要な支援団体とつながることで、相談を受け付けて解決するためのネットワークができてきた経緯がある。</div><div>➢ こうした連携の形を活かし、これまでの枠組みで対応できない課題や困りごとに対応すべく、“ふくし”関係の団体にも入ってもらうことで体制を強化する。</div></div> |
| ⑥        | 連携 PF の参加者の検討・巻き込み | <div>■広く庁内で連携している既存の枠組みを活用</div> <div><div>➢ 庁内で多くの関係部署が広く連携しており、連携の実績もある包括支援体制構築ワーキンググループの枠組みを活用し、連携の足掛かりとした。</div><div>➢ 庁内の連携では、行政だけで解決ができない課題も含めて地域リソースを活用していかに解決するかなど、いわゆる行政の発想にとらわれないよう心がけをしている。</div></div>                                                                                                        |
|          |                    | <div>■支援団体との意見交換を通じて、行政の発想にとらわれない PF 参画団体を検討</div> <div><div>➢ PF で連携する団体の検討に当たっては、行政だけの発想にとらわれないようにすべく、これまでにつなぎのりがない、どのような団体が巻き込めそうか、社会福祉協議会等関係する支援団体等と打合せ、意見交換を実施した。</div><div>➢ いわゆる福祉の分野ではなく、広義の“ふくし”の分業で連携ができるように、団体を検討し、アートやスポーツ関係の団体など幅広い分野での連携を意識した。</div></div>                                                  |
| (ウ) 設立段階 |                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| ⑦        | 域内住民・団体への情報発信      | <div>■アートを起点とした情報発信の実施</div> <div><div>➢ アートによる居場所づくり(ワークショップ、展示会)の実施により、福祉や孤独・孤立という観点では関心の少ない住民も含めてアートを起点に広く情報を発信した。</div><div>➢ 支援団体向けの勉強会を実施し、団体間での自発的な連携・交流を促進すべく孤独・孤立に関する情報周知を実施した。</div><div>➢ このほか、食のつながりとして、キッチンカーなど普段つながっていない人を通じての周知も実施した。</div></div>                                                          |
| ⑧        | 連携 PF の運営          | <div>■団体間での連携強化を目的とした勉強会の実施</div> <div><div>➢ PF の運営では、日常の取組の中では直接的には関係性がない／少ない団体も含めて勉強会を実施。PF で連携することにより、直接的な横のつながりがなくても、勉強会をきっかけとして団体間でつながることで課題が解決できる枠組みを目指す。</div><div>➢ 具体的には、地域で課題があった場合に、支援団体自らが関係しそうな組織に個別に話をいき、支援や課題解決の取組につながる形を目指す。</div></div>                                                                 |

|          |            |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          |            | <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ また、最終的には、必要な組織の調整も行政が主体的に行うのではなく支援団体(事業者)が自発的に行える枠組みの構築を目指す。</li> </ul>                                                                                                                                                     |
| (工) 自走段階 |            |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ⑨        | 今年度の積み残し課題 | <p>■行政と関わりの少ない団体も含めたネットワークの拡大が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 行政主体で連携体制の構築を行うことは重要である一方、普段関連の深い団体に留まる傾向があるため、きっかけとして初期段階では行政発の連携促進をしつつも、今後いかに団体のネットワークを広げるかが課題。</li> <li>➤ 特に、孤独・孤立に直接的に関係性が少ないと思われる団体の巻き込みには、合意形成や調整に時間がかかることから今後の課題となる。</li> </ul> |
| ⑩        | 来年度以降の方針   | <p>■より幅広い団体との連携のために庁内の企画・経済系部署との連携深化も一案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 福祉関係の部署が推進する際には既存団体・事業との相乗効果などのメリットも見込まれる一方で、いわゆる福祉に関わりの少ない団体との連携には工夫が必要となる。</li> <li>➤ そのため、今後さらなる枠組みの拡大に当たっては企画系の部署や経済系の部署との一層の連携強化も一案となる。</li> </ul>                         |

| ブレイクスルー要因 |                     |                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------|---------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           | アクション/<br>ブレイクスルー要因 | <ul style="list-style-type: none"> <li>勉強会の機会を利用した PF メンバー間での意見交換や情報共有の場を設けたことにより、メンバーの連携が深まったほか、気軽に団体間でやり取りのできる関係性が構築できた。</li> <li>既存の枠組みの中で、具体的な相談ができるほどの関係性がなかった団体間での連携の促進につながった。</li> <li>団体間での自発的な連携・交流を促進したことで、具体的な連携の実施に向けた検討も促進できた。</li> </ul> |



## コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

### 就労準備支援事業「はたらっく・ざま」

- ・ 「はたらっく・ざま」は、共同企業体(生活クラブ、NPO ワークスコレクティブ協会、さがみ生活クラブの3者)として、座間市から委託を受けて座間市就労準備支援事業を運営しており、「はたらっく・ざま」には1300人の組合員がいる。
- ・ 本事業は仕事辞めて時間が経っていたり、働いたことがなかったり、就労経験が少ないため働くことに不安をもつ方を対象に、具体的には、働く前の生活リズムを整えるための講義や演習、職場体験を通し自分の強みと苦手な部分を見つける実習などの支援を、座間市の担当者(生活援護課自立サポート担当)と相談しながら実施。
- ・ 就労支援事業を中心としつつ、座間市民をつなぐということを意識して活動を実施。

#### 🔔各支援団体の幅広に相談を受ける心構え及び住民の認知が重要

- ・ 現在の社会や地域には、自分のことは自分でやるべきという価値観が蔓延している。相談をする人は弱い人と思われるために、相談がしにくい社会になっている。また、専門性が高いがゆえに相談窓口も多様化しており、適切な相談先が判然としない状態になっている。
- ・ 困りごとがあった場合に、本当に最適な相談先かどうかにかかわらず、どこかの支援団体に相談に行けば適切な相談先につないでもらい、必要な支援先につながるができる相談先があることが住民に認識されることが重要。
- ・ 必ずしも専門性が高い集団ではなくとも、支援団体や PF の団体それぞれが相談を幅広く受け持ち、それを他の団体・機関につないで地域として解決につなぐ仕組みができているということを明示する必要がある。

#### 🔔団体間でゆるくつながること・団体間の取組の理解が重要

- ・ 団体間では思っている以上に各団体の取組内容について、理解できていないことが多く、住民から相談があった場合に他の支援団体に、簡単に相談ができるまでの関係にはなっていないケースが多い。
- ・ 今後は、専門性の高い団体・機関だけではなく、幅広い団体間でゆるい関係が広がることが重要であり、様々な団体が気楽に参加できるような形を目指していく必要がある。
- ・ 同時に、各団体の持っているリソースや能力を共有し、困りごとを一緒に解決できる関係・場づくりも重要となる。

#### 🔔枠組みを作る際には初期段階で多くの団体でコンセプトを考えることが重要

- ・ 団体と団体とが連携するとなると、組織内で調整が必要になるため、初期段階でコンセプトや考え方をしっかりと理解してもらうことが大事。
- ・ 枠組みの絵を描いた後に参加する場合は他人事になってしまうため、枠組みを有効に機能させる観点からは、設立段階で大勢の人で絵を描くこと、加えて、いかに多くの人を集めることができるかが重要。

#### <ハロウィンカフェ>



断らない相談支援はつながると言うこと。座間市民が持つ優しい「ふくし」を上げつなげることで、孤独・孤立にある方達の安心して暮らせる地域が生まれると確信します。誰でも参加できる緩やかな PF がたくさん必要になっています。

はたらっく・ざま 代表  
岡田 百合子

| 5.自治体等との打合せ記録一覧 |                         |               |            |          |
|-----------------|-------------------------|---------------|------------|----------|
| No.             | 日時                      | 打合せ相手団体       | 出席者        |          |
|                 |                         |               | 打合せ相手      | NRI      |
| 1               | 7/27(木)<br>17:00-18:00  | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 林様、谷田様、武藤様 | 生駒、谷本、宮澤 |
| 2               | 8/18(金)<br>15:30-16:30  | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 林様、谷田様、武藤様 | 生駒、宮澤    |
| 3               | 9/20(水)<br>15:00-16:00  | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 谷田様、武藤様    | 生駒、谷本、宮澤 |
| 4               | 10/5(木)<br>9:00-10:00   | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 谷田様、武藤様    | 生駒、谷本、宮澤 |
| 5               | 10/18(水)<br>17:00-19:00 | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 谷田様、武藤様    | 生駒、谷本、宮澤 |
|                 |                         | 現代美術作家        | 鈴木様、斎藤様    |          |
| 6               | 10/26(木)<br>16:00-17:00 | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 谷田様、武藤様    | 生駒、宮澤    |
| 7               | 11/8(水)<br>11:00-12:00  | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 谷田様、武藤様    | 生駒、宮澤    |
|                 |                         | グランドレベル       | 田中様、大西様    |          |
| 8               | 11/21(火)<br>15:30-17:00 | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 谷田様、武藤様    | 宮澤       |
|                 |                         | 現代美術作家        | 鈴木様、斎藤様    |          |
| 9               | 11/28(火)<br>11:00-12:00 | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 谷田様、武藤様    | 宮澤       |
|                 |                         | グランドレベル       | 田中様、大西様    |          |
| 10              | 12/8(金)<br>11:00-12:00  | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 谷田様、武藤様    | 宮澤       |
| 11              | 1/12(金)<br>18:00-19:00  | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 谷田様、武藤様    | 宮澤       |
|                 |                         | 現代美術作家        | 鈴木様、斎藤様    |          |
| 12              | 1/23(火)<br>9:00-10:00   | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 谷田様、武藤様    | 宮澤       |
|                 |                         | グランドレベル       | 田中様、大西様    |          |
| 13              | 2/14(木)<br>10:30-12:00  | 座間市 福祉部 地域福祉課 | 谷田様、武藤様    | 生駒、宮澤    |
|                 |                         | ソーシャルワーカーズラボ  | 今津様        |          |



## 自治体による従前からの取組

■ 生活困窮者自立支援制度「断らない相談支援」による支援体制づくり

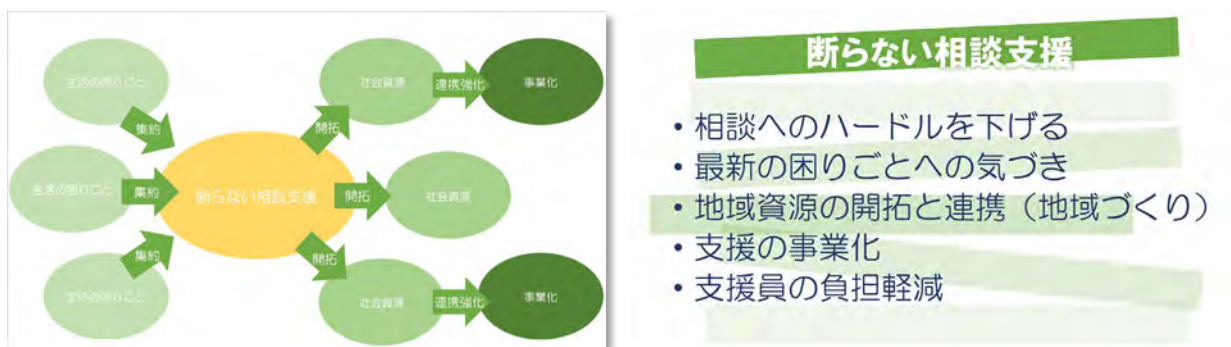
(取組概要)

座間市では、さまざまな問題を抱えて生活に困っている方の課題解決と自立を支援。

相談支援員は、課題解決のために何が必要か一緒に考え、具体的なプランを作成し、自立に向けた支援を実施。相談は、本人だけでなく、家族や関係者からも受け付けている。

具体的な支援の種類として、自立相談支援、就労支援、就労準備支援、居住支援、住居確保給付金等の支援を実施。

図表 断らない相談支援



図表 座間市の支援事業



■ 包括的支援体制整備WG等を中心とした庁内連携  
(取組概要)

「生活に困りごと」の支援を通じた庁内連携体制の構築を検討。庁内ルールや連絡体制など、包括的な支援体制の仕組みを整備。平成29年度に行政改革推進委員会の専門部会として発足し、令和2年度にワーキンググループへ移行した。

「生活困窮者支援」を福祉だけの問題ではなく、市役所へ来る方は困りごとを抱えている可能性があると考え、市役所全体で、市民の困りごとに「きづき」、適切な支援へ「つなぐ」ための仕組みを検討している。

図表 つなぐシート・相談チャート



図表 職員研修



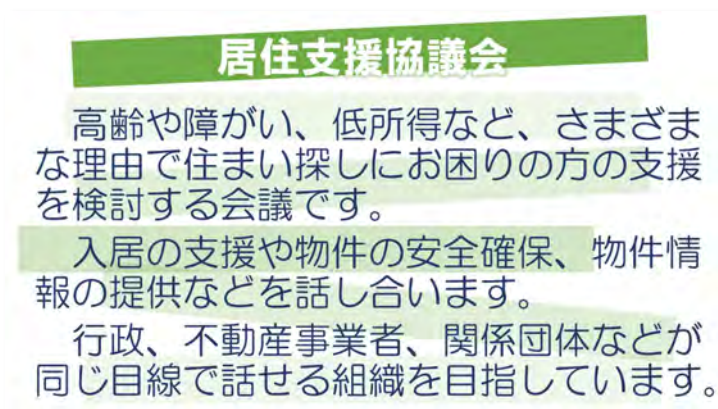
## ■ 居住支援協議会

(取組概要)

高齢や障がい、低所得など、さまざまな理由で住まい探しにお困りの方の支援を検討する会議。

居住支援協議会は、経済的にお困りの方、高齢の方、障がいのある方、子育て中の方、外国籍の方など、住まい探しにお困りの方および住宅を貸し出している方への情報提供や円滑な入居に必要なことを話し合うことで、豊かで住みやすい地域づくりに貢献することを目的としている。

図表 居住支援協議会



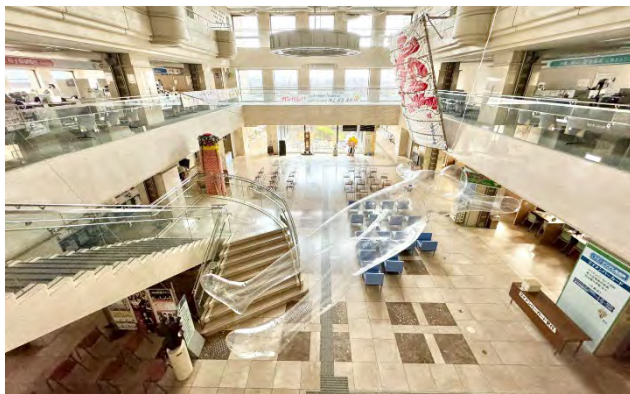
| 試行的事業                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ④ アートによる社会参加の創出                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 概要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>現代美術展「空気の人／分光する庭」(展示) <ul style="list-style-type: none"> <li>トークイベント「見えない個性を発見する」</li> <li>ギャラリートツアー</li> </ul> </li> <li>ワークショップ</li> </ul>                                                                                                                                                  |
| 結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | <p>【展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントの参加者数(1F ロビー:1460 人程度／7階展望フロア:1070 人程度／トークイベント:120 人程度)</li> <li>満足度:およそ9割が「よい」または「とてもよい」と回答</li> </ul> <p>【ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援する側・される側ではない個性の評価を通じて、当事者の生きづらさへの感じ方の変化があった。</li> <li>一般参加者にとって、孤独・孤立に関する理解・認識向上や視点の変化など気づきがあった。</li> </ul> |
| 工夫点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>アートを通じて、これまで孤独・孤立問題や福祉に関心が少ない住民も含めて参加者に、孤独・孤立に関係する視点・問題意識をもつきっかけとしてもらう。</li> <li>ひきこもり状態など孤独・孤立を感じている当事者と一般参加者で協働作業を行い、福祉的なものではなく、アートの視点から個性の評価を行う。</li> </ul>                                                                                                                                |
| ねらい                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>住民や PF 参画団体等に対してアートをきっかけに、孤独・孤立に関する問題認識の共有及び理解向上を図る。</li> <li>一般参加者に孤独・孤立の問題が当たり前にあるものだと思いってもらう。</li> <li>生きづらさを抱える方にネガティブな個性の魅力に気づいてもらう。</li> </ul>                                                                                                                                          |
| ▼プログラム内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| <p>【作品展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称:現代美術展「空気の人／分光する庭 鈴木康広」<br/>※トークイベント、ギャラリートツアーも期間中に実施。</li> <li>日程:2024 年 2 月 20 日(火)ー2 月 26 日(月)</li> <li>会場:座間市役所 ロビー(1 階)・展望フロア(7 階)</li> <li>展示内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>市役所1階ロビー…大規模展示《空気の人》</li> <li>展望フロア…中小規模の作品を複数展示。座間市在住の参加者とのワークショップをもとに協働制作した作品《分光する庭》も展示。</li> </ul> </li> <li>概要:これまで福祉の観点や孤独・孤立問題に関心が少なかった方々に対しても、アート作品を通じて認識・理解向上を促すきっかけとする。具体的には、見慣れたものや何気ない自然現象を捉え直し通常は結びつかない物事の中に新たなつながりを見出す、または、錯覚などをきっかけに自身のものの見方が変わる作品を通して世界を見ることで、日常において誰もが陥る可能性があるものの、認識するきっかけが少ない、孤独・孤立に関する気づき・認識・理解のきっかけとする。同時に、各人の孤独・孤立に関する視点の変化や考え方の変化につなげる。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |



図表 プログラム(チラシ)



図表 空気の人(大型展示)



図表 ルーペの節穴(中型展示)



- ・ トークイベントでは、アーティストの鈴木氏と座間市の職員での今回のアートによる居場所づくりと孤独・孤立の関係性や、各作品に込めた考え方について紹介するとともに、視点や考え方を変えるアートの取組・体験についてディスカッションを実施。
- ・ ギャラリーツアーでは、作家による各作品の解説を実施。

図表 トークイベント



図表 ギャラリーツアー

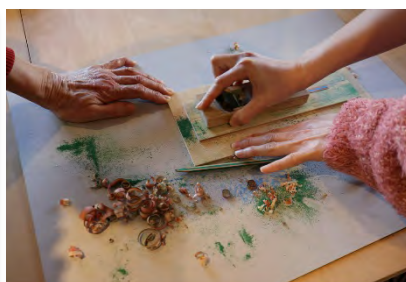




## 【ワークショップ】

- ・ 名称:現代美術展「空気の人／分光する庭」
- ・ 日程:2024 年 1 月 30 日(火)午前/午後
- ・ 会場:プラっとざま
- ・ プログラム内容
  - ・ 「2人の境界線を引く」(参加者:14 名)
    - ・ 参加者それぞれが「座間」でイメージする色の色鉛筆を半分に削り、重ね合わせることで一つの線を引く。
  - ・ 「好きと嫌いの詩」(参加者:15 名)
    - ・ 参加者それぞれの“好き”と“嫌い”を書き出し、共有し、それぞれの詩を作る。
- ・ 概要:現在支援につながっている当事者と一般参加者が共同での作品の制作を通じて、当事者にとっては、日常のくらしの中では評価されない個性や側面について気付きを与えることで、個性の再評価・自己肯定感の向上につなげる。同時に、一般参加者にとっては、当事者との共同作業を実施することで孤独・孤立の問題が当たり前にあるものだと思い知らせるとともに、必ずしも日常のくらしの中で評価されない個性であっても評価される体験を通じて、孤独・孤立に対する視点・考えの変化につなげる。

図表 ワークショップ



## ▼実施結果

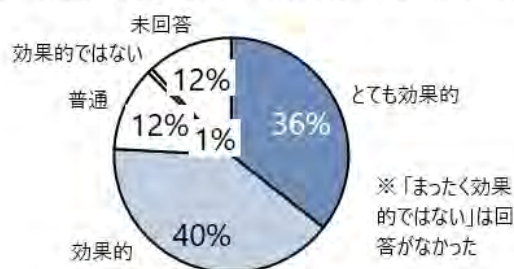
### 【作品展示】

- ・ 作品展示に当たって、参加者に対して満足度やアートによる孤独・孤立へのアプローチに関するアンケートを実施し、いずれも高い評価を得ることができた。
  - ・ 美術展の満足度 → 8 割以上が「変化があった」と回答
  - ・ アートによる孤独・孤立へのアプローチについて → 8 割弱が「効果的」と回答
  - ・ 新しい気づきや考え方の変化について → 8 割以上が「変化があった」と回答
  - ・ 生きづらさや個性の多様化について → 8 割弱が「興味をもった」と回答

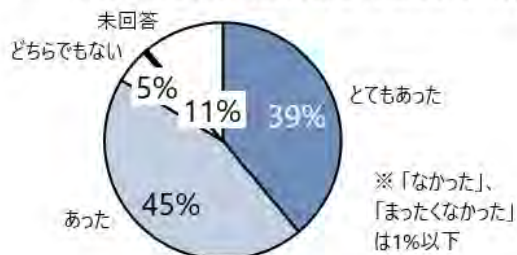
#### ■ 現代美術展の満足度 (N=542)



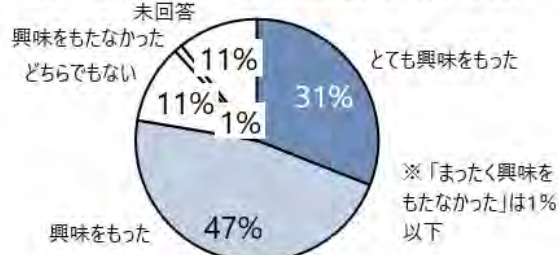
#### ■ アートによる孤独・孤立へのアプローチについて (N=542)



#### ■ 新しい気づきや考え方の変化について (N=542)



#### ■ 生きづらさや個性の多様化について (N=542)



- ・ アンケート自由記載(一部抜粋)
  - ・ 孤独・孤立という一見かわりにくいテーマもアートにすることで非常に敷居が下がった。
  - ・ 世の中には様々な生きづらさや色々な個性があり、作品を通じて新鮮なアイデアや視点を得ることができた。
  - ・ どの人も持つ生きづらさを自身の事として考えるきっかけとなった。
  - ・ ひきこもりの人たちと普段接することはありませんが、作品を通して接することができた。

#### 【ワークショップ】

- ・ ワークショップ参加者にアンケートを実施し、アート作品を通じて、孤独・孤立の問題意識を持つ、人とのつながりを感じるきっかけとなる、自己表現の可能性を感じるなど、参加者の孤独・孤立に関する意識の変化のきっかけとなった。
- ・ アンケート自由記載(一部抜粋)
  - ・ 「好きと嫌いの詩」の色々な詩を読んでみて共感する部分が多く、実際にはその詩を書いた人と会って話しているわけではないが、なんだかつながっている気分になった、孤独・孤立へのアプローチとして非常に効果的だと感じた。
  - ・ 普段意識していないような事柄でも他の人は好嫌を感じていたり、感じ方や視点が沢山あり面白い。アートという場にする事で誰でも自己表現ができるので可能性を感じた。
  - ・ 支援が必要な人もそうではない人も大差ないことを互いに知るきっかけになる。
  - ・ ワークショップやアートを見ると他者とのつながりを感じられる。
  - ・ 孤独や孤立の当事者にとって、アートの伝える力はとても影響力があると感じた。
  - ・ 孤独や孤立は目に見えない、生きづらさがある。目に見えないからこそ、アートを通じて見えないものが見えた気がした。

#### 【考察】

- ・ 作品展示及びワークショップを通じての事業の結果についての考察を下記のとおり整理した。
- ・ まず、作品展示に関して、期間全体を通じて 1500 名弱の来訪があったこと、アンケート結果を踏まえてもアートが孤独・孤立に対するアプローチとして有効であると多くの方が回答しており、さらに、新しい気付きや考え方の変化を感じ、生きづらさや個性の多様化へ興味をもつきっかけとなったとの回答が大半を占めていることなどからも、特にこれまで福祉や孤独・孤立に関心が少なかった住民に対して、まずは孤独・孤立問題・対策の認識をもってもらふ点において、効果があったと考えられる。
- ・ また、今回の展示作品では、“孤独・孤立”という日常に当たり前に存在し、誰もが陥り得るものであるものの普通の生活の中で気づくきっかけの少ない問題に対して、視点を変える、ものの見方を変えるとといった気づきを与える作品を中心に展示するほか、実際に支援を受けている当事者とのワークショップの中で作り上げた作品を展示すること、加えて、作品と“孤独・孤立”の関係性についてのキャプションないしは作家や行政職員による丁寧な解説・説明を通じて、参加者に普通の生活の中で気づくことの少ない、当たり前に存在する孤独・孤立問題に気づくきっかけとなるとともに、同時にアートを通じて人とのつながりを作り出す可能性についても理解を促すことにつながった。単に作品を展示するだけではなくキャプションや丁寧な解説を同時に行うことで、孤独・孤立と作品の関係性や問題そのものへの理解促進が有効に図れると考えられる。
- ・ このほか、ワークショップに関しては、支援につながっている当事者にとっては、ワークショップの中で、日常の暮らしの中では評価されにくい個性や側面について気付きを得ることで、アートを通じた自己表現や社会参加の可能性を体験し、個性の再評価・自己肯定感の向上につながったと考えられる。同時に、一般参加者にとっては、当事者と実際に共同作業を実施することで孤独・孤立の問題が当たり前にあるものだと気付いてもらうとともに、アート作品と“孤独・孤立”の関係性についての作家や行政職員による解説・説明を通じて、必ずしも日常の暮らしの中で評価されにくい個性であってもアートの分野などでは評価され得るという考え・視点の変化・多様化につながったと考えられる。

### ⑤ 啓発のための学習会

|     |                                                                                                                                       |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 概要  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 名称:座間ではじめるやさしいまちづくり</li> <li>・ 日程:2024 年 2 月 4 日(日)</li> <li>・ 会場:喫茶ランドリー ホシノタニ団地</li> </ul> |
| 結果  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントの参加者数(30 人程度)</li> <li>・ 満足度:およそ9割が「よい」または「とてもよい」と回答</li> </ul>                          |
| 工夫点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「福祉」を地域や日常に根付くものへと、より広義で活動的なものにする取組を実施している田中氏、今津氏をプレゼンターとして呼び、多様な分野の団体が孤独・孤立と</li> </ul>     |

|     |                                                                                                                                                           |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>関連していることを啓発。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• いわゆる福祉関係の団体だけではなく、これまで市としてつながりの少なかった団体・組織等を PF に参画してもらうべく行政のみならず関係団体を通じての呼びかけを実施。</li> </ul> |
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> <li>• PF 参画団体等に対して孤独・孤立に関する問題認識・理解向上を図る。</li> <li>• 団体間での連携を図る。</li> </ul>                                             |

## ▼プログラム内容・実施結果

- プレゼン
  - 田中元子 (株)グランドレベル代表
  - 今津新之助 SOCIAL WORKERS LAB ディレクター
  - 林 星一 座間市地域福祉課 課長
- 参加者との意見交換

図表 プレゼンターによる主なプレゼン内容／主な意見交換の内容

| 主なプレゼン内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 主な意見交換の内容                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>• 孤独・孤立の取組に関して、福祉に関する活動やサービスの提供方法について、足し算方式ではなく、既にある資源や優しさを見つけ出し、それを活かす方法・考え方について紹介。</li> <li>• 福祉に関わる活動に、福祉を専門に学んでいない人々や一般市民がどのように参加しているのか、特に、異なる分野からの参加者がどのようにしてこの活動に関わっているのかを説明。</li> <li>• 公園や公民館などの公共の場をより良くする事業を紹介し、地域コミュニティの活性化には、公共の場の活用が効果的であることを紹介。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 参加者が自己紹介を行い、それぞれの役割、自らが関わっている孤独・孤立や広義の福祉に関する取組や社会貢献活動について共有。</li> <li>• 参加者間で今後の具体的な連携に向けた話し合いや提案が行われた。</li> <li>• 各団体での居場所を提供する取組が、住民にとって安心感を提供し、社会とのつながりを取り戻すきっかけになっているといった意見が多くあった。</li> </ul> |

図表 チラシ





図表 学習会の様子



- 市としてこれまで連携してきた主に福祉にかかわる組織・団体と、サッカーチームなど新たな団体の間で新たな取組・活動のきっかけとなった。
- このほか、これまでの枠組みで連携してきた団体間でも、互いの取組を知るきっかけとなり、団体間で相談のできる関係が構築できた。

図表 主な参加者／団体

| 主な参加者     |                 |
|-----------|-----------------|
| ・ サッカーチーム | ・ 民生委員          |
| ・ 保育園     | ・ NPO           |
| ・ デザイナー   | ・ 大学生           |
| ・ 社会福祉協議会 | ・ 就労支援機関        |
| ・ 葬祭事業者   | ・ こども食堂・学習支援関係者 |
| ・ 子育て支援組織 | ・ 市議会議員         |